高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第９集

須江上段遺跡

―松ノ本地区―

高圧電線鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９２．３

㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター

須 江 上 段 遺 跡

―松ノ本地区―

高圧電線鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992. 3

㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

土佐山田町は高知県の中央部、南国市の北部に位置する町ですが、町域の南半部は水田や畑地を中心とする平野部であり、物部川や国分川により形成された高知平野の一部を占めています。また、北半部は四国山地に連なる山々からなる山間部であり、山地と平野の二つの地域を持っています。

土佐山田町の歴史をさかのぼれば、縄文時代早期の遺跡が町内最古の遺跡であり、それ以降、弥生時代では著名な龍河洞洞穴遺跡やひびのき遺跡などが存在しています。さらに、古墳時代では、南国市から土佐山田町にかけての山麓部が県下でも最も古墳の多い地帯となっており、須恵器の窯跡も数多く所在しており、高知県最大の古窯跡群を形成しています。古代から中世にかけても群衙推定地や中世城館跡などが存在しており、南国市ともども高知県の歴史の宝庫と言えるでしょう。

今回、調査が行われた須江上段遺跡は、現地の字名である須江を遺跡名称としたところですが、この字名のとおり、古代には須恵器生産の中心的地域であったと考えられ、重要な遺跡として位置付けられます。須江上段遺跡では、これまでに圃場整備事業に伴う試掘調査や本調査が行われていますが、広範囲におよぶ弥生時代から中世にかけての複合遺跡ですので、遺跡全体の様相はつかみきれていません。松の本地区の発掘調査は鉄塔建替えに伴うものであり、調査範囲は決して広くはありませんでしたが、古代の建物跡等が発見され、貴重な資料を得ることができました。この資料が土佐山田町の歴史を知る上で活用されれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたってご協力をいただきました四国電力㈱、土佐山田町教育委員会、地元須江地区、そして作業員の皆様に感謝を申し上げます。

1992年３月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長　小　橋　一　民

例　　言

1．本書は高圧送電線鉄塔建設に伴う須江上段遺跡（土佐山田町）の発掘調査報告書である。なお、同じく送電線鉄塔建設に伴うハザマダ遺跡（南国市）の確認調査についても本書に掲載する。

2．今回の調査報告書としては、須江上段遺跡が広範囲な遺跡であるため、鉄塔建設地の小字により「須江上段遺跡－松ノ本地区－」の名称とした。また、ハザマダ遺跡についても同様に「ハザマダ遺跡－キシロ地区－」とした。

3．発掘調査は、県教育委員会の指導のもと、原因者である四国電力㈱との協議により、㈶高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、四国電力㈱の委託を受け、実施した。

4．須江上段遺跡－松ノ本地区－の調査期間は平成３年11月９日から11月30日であり、調査面積は274㎡であった。また、ハザマダ遺跡－キシロ地区－の調査期間は平成３年11月５日から11月17日であり、調査面積は40㎡であった。

5．発掘調査は㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第２係調査員中山泰弘が調査担当者となり発掘調査から報告書作成を行った。

6．発掘調査にあたっては、四国電力㈱、土佐山田町教育委員会、地元須江地区の皆様にご協力をいただいた。記して感謝する次第である。

7．須江上段遺跡－松ノ本地区－の調査略号は91－22YMSであり、ハザマダ遺跡－キシロ地区－の調査略号は91－23HKである。

8．須江上段遺跡－松ノ本地区－、ハザマダ遺跡－キシロ地区－の遺物、図面、写真等の資料は、高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管されている。

報告書要約

1．遺 跡 名　須江上段遺跡－松ノ本地区－　遺跡番号　190072
　　ハザマダ遺跡－キシロ遺跡－　遺跡番号　040026

2．所 在 地　高知県香美郡土佐山田町須江（須江上段遺跡）
　　高知県南国市植田（ハザマダ遺跡）

3．立　　地　新改川左岸の段丘面（須江上段遺跡）
　　国分川左岸の段丘面（ハザマダ遺跡）

4．種　　別　弥生時代～中世　散布地（須江上段遺跡）
　　古墳時代～古代　散布地（ハザマダ遺跡）

5．調査主体　（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター

6．調査契機　高圧送電線鉄塔建設工事

7．調査機関　平成３年11月９日～11月30日（須江上段遺跡）
　　平成３年11月５日～11月17日（ハザマダ遺跡）

8．調査面積　274㎡
　　40㎡

9．検出遺構　須江上段遺跡－松ノ本地区－堀立柱建物跡・土坑・溝跡・ピット竪穴状遺構
　　ハザマダ遺跡－キシロ地区－遺構検出無し

10．出土遺物　須江上段遺跡－松ノ本地区－須恵器・土師器・弥生土器・石包丁
　　ハザマダ遺跡－キシロ地区－須恵器・土師器・土師質土器等細片

11．内容要約　須江上段遺跡

　須江上段遺跡－松ノ本地区－は、新改川の左岸、段丘上に位置しており、須江上段遺跡の中心部分に含まれている。時期的には奈良～平安時代を中心としており、北の山麓部には多数の須恵器窯跡が存在することから、須恵器生産に関連する官衙的な性格も有する可能性が指摘される。今回の調査では弥生時代の竪穴状遺構も確認されているが、平安時代の掘立柱建物跡も検出されており、須江上段遺跡において明確な建物跡を確認することができた。

ハザマダ遺跡

　ハザマダ遺跡－キシロ地区－では、２箇所のトレンチにより遺構、遺物の状況を確認したが遺構は検出されず、小量の遺物が出土したのみであり、本調査を行うには至らなかった。

本文目次

須江上段遺跡　　松ノ本地区

１．調査に至る経緯 …… 1
２．地理的・歴史的環境 …… 2
（１）地理的環境 …… 2
（２）歴史的環境 …… 3
３．　調査の概要 …… 6
（１）調査の方法 …… 6
（２）調査の内容 …… 7
４．遺構 …… 8
５．遺物 …… 9
６．調査の成果 …… 16

ハザマダ遺跡　　キシロ地区

１．調査に至る経緯と経過 …… 18
２．調査の結果 …… 18
写真１．ハザマダ遺跡キシロ地区　ＴＲ１　調査状況 …… 18
写真２．ハザマダ遺跡キシロ地区　ＴＲ２　調査状況 …… 18

挿図目次

須江上段遺跡　　松ノ本地区

Fig. 1　土佐山田町位置図 …… 1
Fig. 2　須江上段遺跡位置図 …… 2
Fig. 3　周辺遺跡分布図 …… 5
Fig. 4　調査区位置図 …… 6
Fig. 5　調査区グリッド設定図 …… 7
Fig. 6　調査区遺構全体図・土層図 …… 12

Fig. 7　ＳＢ１・２、ＳＫ１平面・断面図 …… 13
Fig. 8　遺構及び包含層出土遺物１ …… 14
Fig. 9　包含層出土遺物２ …… 15

ハザマダ遺跡　　キシロ地区

Fig. 1　ハザマダ遺跡キシロ地区位置図 …… 19
Fig. 2　ハザマダ遺跡キシロ地区調査対象地 …… 19
Fig. 3　調査トレンチ設定図 …… 20

表　目　次

Tab. 1　周辺遺跡地名表 …… 4
Tab. 2　遺物観察表 …… 10

写真図版目次

PL. 1　遺跡遠景（南西より）・遺跡近景（北より）
PL. 2　遺構検出状態南半部（東より）・遺構検出状態北半部（東より）
PL. 3　遺構検出状態（南より）・遺構検出状態（北より）
PL. 4　遺構検出状態（北東より）・ＳＫ１検出状態
PL. 5　ＳＫ１遺物出土状態・ＳＫ１埋土状況
PL. 6　ＳＫ１石包丁出土状態・ＳＫ１完掘状態
PL. 7　ＳＤ１検出状態・ＳＤ１完掘状態
PL. 8　ＳＢ１柱穴須恵器出土状態・ＳＢ１柱穴出土須恵器
PL. 9　ＳＢ１柱穴須恵器出土状態・ＳＢ１柱穴出土須恵器
PL.10　ＳＢ１柱穴土師器出土状態・ＳＢ１柱穴出土土師器
PL.11　ＳＢ１柱穴根石出土状態・ＳＢ１柱穴根石出土状態
PL.12　調査区完掘状態（北より）・ＳＢ１完掘状態（北より）
PL.13　出土遺物１（表）・出土遺物１（裏）
PL.14　出土遺物２（表）・出土遺物２（裏）
PL.15　出土遺物３（表）・出土遺物３（裏）
PL.16　出土遺物４（表）・出土遺物４（裏）

1．調査に至る経緯

須江上段遺跡は、昭和63年度と平成元年度に行われた香美・長岡郡及び南国市の遺跡詳細分布調査によって確認された遺跡である。位置的には新改川左岸の段丘面及びその下面の沖面積にあたり、広範囲に遺物が分布している。段丘面上では、分布調査以前から遺物の分布が確認されており、須江の地名及び北部山麓に分布する窯跡や古墳の存在からみて、大規模な遺跡の存在が考えられていた。

遺跡分布調査と前後して、須江地区を含む山田北部地区の圃場整備事業が計画されており、分布調査で発見された遺跡も含め、圃場整備計画地内の取り扱いが協議された。圃場整備計画は大規模なものであり、遺跡の範囲外にも未確認の遺跡が存在する可能性があるため、土佐山田町教育委員会が主体となり国庫補助事業により事前の確認調査が行われた。その結果、遺構、遺物の集中箇所とそれ以外の分布密度の低い範囲が判明し、その結果を基礎に圃場整備計画との調整を行い、必要な個所については本調査が行われた。今回の送電線鉄塔建設地である松の本地区では用地の関係もあり、十分な確認調査が行うことができなかったが、周辺部の調査結果からすれば、遺構、遺物の分布密度は高い範囲と考えられた。

今回の発掘調査の契機になった送電線の鉄塔は、新改から高知市への高圧送電線用であり、電力の安定供給のため高知市方面より順次建て替えが行われていた。一連の鉄塔建て替えによる調査としては、南国市岡豊町の岡豊城跡（立会調査）、同町の蔵本２号墳（新発見・発掘調査）等が行われており、引き続き南国市から土佐山田町に至る鉄塔建て替えについても確認調査が必要とされていた。以上の状況を受けて、四国電力㈱からの送電線鉄塔建て替えの具体的な協議に対し、試掘確認調査を行い、その結果により必要な個所については本調査を行うこととなった。四国電力㈱、県教育委員会、土佐山田町教育委員会の協議により、発掘調査は（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、須江上段遺跡及びハザマダ遺跡の２遺跡について発掘調査を行うこととなった。

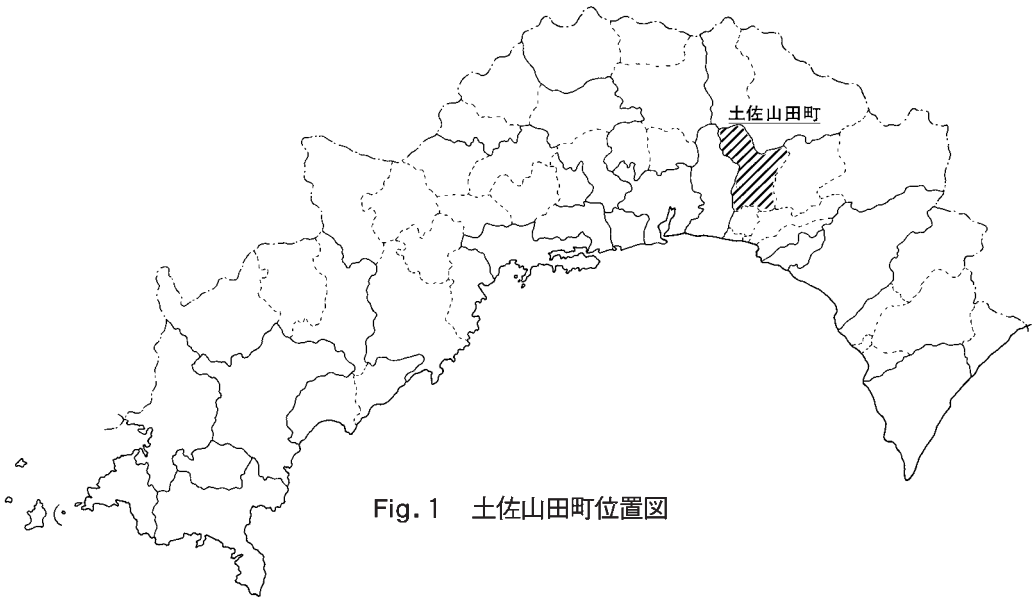


Fig. 1　土佐山田町位置図

2．地理的・歴史的環境

（1）地理的環境

土佐山田町は、高知県の中央部である高知平野の北東部に位置している。南と西は南国市、東は物部川を挟んで野市町と接し、北は四国山地の南を町域としており、大豊町と接している。土佐山田町の中心である山田の町街は物部川が山間部から平野部へと流れ出る位置にあり、神母の木から長岡台地上に東西に広がっている。以前は物部川による水運の中心として、物資の集積地として栄えたが、現在では鉄道や道路により高知市とも結ばれ、住宅地化している状況である。産業はやはり農業を中心とする第一次産業であり、物部川と国分川（新改川）流域の沖積平野は水田地帯となり、長岡台地上では畑地が多く見られる。また、土佐鍛冶として刃物生産も行われており、土佐山田町の特産品となっている。

地理的に見ると、土佐山田町は北部の山間部と南部の平野部に二分される。北部の山間部は分水嶺を超えた吉野川水系にもおよんでおり、太平洋側の斜面は急傾斜であり、小さな谷が入り組みながら平野部に接している。平野部は物部川と国分川の扇状地である沖積地が広がっている。扇状地は古期扇状地と新期扇状地に分かれ、その間の段丘崖は５ｍほどの比高差である。古期扇状地は長岡台地と呼ばれており、山田町から南国市御免に向けて延びており、高知市との境界付近で沖積面に没している。遺跡の立地としては長岡台地上に分布が多く、新規扇状地ではやや少ないが、田村遺跡群のような大規模な遺跡立地の例も見られる。

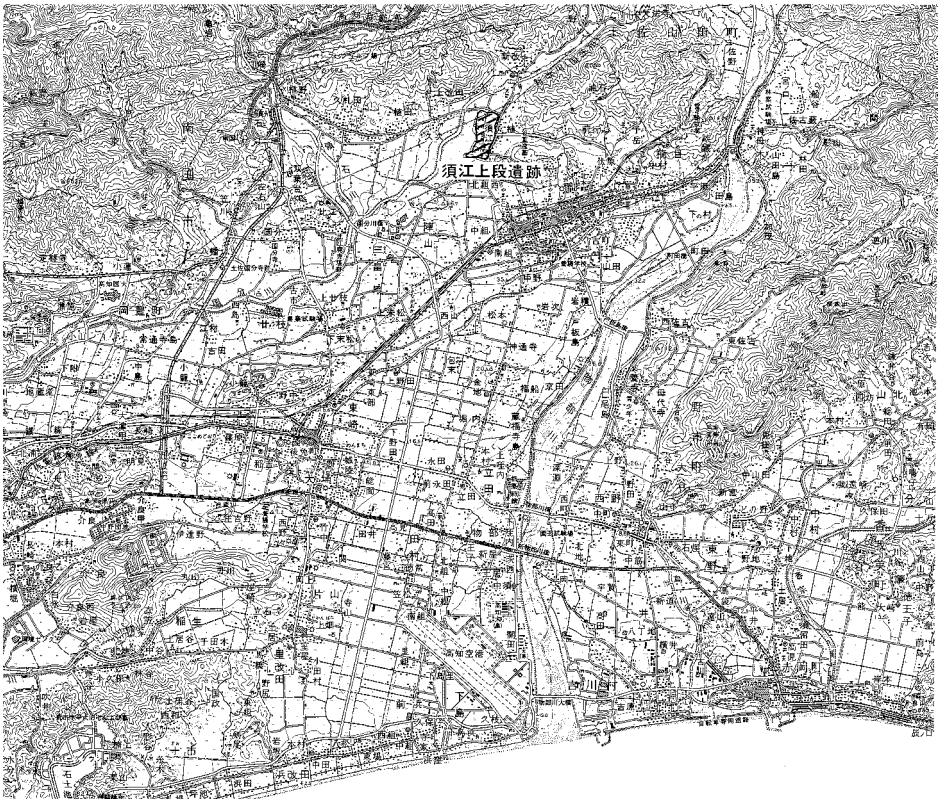


Fig. 2　須江上段遺跡位置図（S＝1/100,000）

（2）歴史的環境

土佐山田町の歴史を遡ると、縄文時代早期が現在のところ最古の時代と言うことができる。この縄文時代早期の遺跡は、土佐山田町繁藤に所在していた飼古屋岩陰遺跡である。当遺跡は土佐山田町内でも北部の山間部である繁藤地区に存在しており、水系は太平洋側ではなく、分水嶺を越えた吉野川の支流である穴内川の上流部に位置している。遺跡は穴内川に流入する小河川の谷間、右岸に見られる岩陰であり、発掘調査は昭和57年に四国横断自動車道の建設工事に伴い実施されており、現在は高速道路の下となっている。調査の結果、縄文時代早期の押型文土器とともに石鏃や石斧等の石器や剥片も出土しており、石鏃は合計360点以上であるが、その中でサヌカイト製の石鏃が約70％を占めており、吉野川水系に位置する遺跡の状況として非常に特徴的である。遺跡自体は岩陰の前提部が中心であり、縄文土器とともに弥生土器も少量ではあるが混在しており、岩陰部から前庭部にかけて後世に撹乱を受けたものと考えられる。

弥生時代では、前期の遺跡は発見されていないものの、中期から後期にかけての遺跡は多数確認されている。中でも弥生時代後期の遺跡はひびのき遺跡を代表として発掘調査が行われた遺跡も数例あり、高知平野の弥生時代後半を知るための良好な資料となっている。また、弥生時代中期の遺跡としては、国指定の史跡及び天然記念物となっている龍河洞を代表としてあげることができる。龍河洞は土佐山田町の東部、物部川の左岸に位置する三宝山の中腹に開口している鍾乳洞であり、洞穴の上部付近の岩屋部分から弥生時代中期後半の土器、石器、鉄器等が出土している。龍河洞洞穴遺跡出土の弥生土器は凹線文を持っており、第４様式平行の土器として龍河洞式土器の名称が付けられており、高知県の弥生時代中期後半を示す土器形式とその標式遺跡となっている。弥生時代後期の遺跡では、長岡台地上のひびのき遺跡、ひびのきサウジ遺跡と物部川左岸の林田遺跡等の発掘調査が行われており、良好な資料が発見されている。ひびのき及びひびのきサウジ遺跡では弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が検出されており、特にひびのき遺跡では出土土器によりヒビノキⅠ～Ⅲ式までの形式設定が行われている。弥生時代の遺跡の分布範囲は、古期扇状地の段丘面である長岡台地上だけではなく新期扇状地上に広がっており、現在の土佐山田町の範囲は弥生時代中期から後期にかけて大いに開発が進んだ地域と言うことができる。

古墳時代には、北部の山麓部を中心に多くの古墳が構築されており、南国市や野市町とともに高知県最大の古墳密集地帯となっている。これらの古墳は、ほぼ全てが横穴式石室を持つ後期古墳であり、現在のところ確実な前方後円墳の存在は確認されていない。このような状況は県内全ての地域でも同様であり、高知県下における前方後円墳の存在は不明である。ただ１例ではあるが、宿毛市平田に存在していた平田曽我山古墳が前方後円墳であったと言われているが、残念ながら戦後間もない頃に中学校建設時に削平され、現存していない。また、土佐山田町の伏原大塚古墳が、残されている古墳外形の一部の形状から前方後円墳ではないかと推察されていたが、国庫補助事業による確認調査の結果、方墳である可能性が高く、県中央部における前方後円墳の状況はさらに不明となっている。なお、伏原大塚古墳からは須恵器の円筒埴輪が出土し、県下では唯一の埴輪を持つ古墳となっており、高知県における古墳文化のあり方を知る上で重要な資料と

なっている。今回の調査地である須江地区にも、新改川の右岸の水田に須江塚穴古墳と呼ばれる古墳跡が円形を呈する圃場として存在している。須江塚穴古墳は、明治時代に地区の青年団活動として圃場拡大のために削平され、石室も破壊されたため、水田の形としてのみ残されたものである。

古代になると多くの須恵器の窯跡が、やはり北部の山麓部に集中的に営まれる。時に新改川の上流域に多くの須恵器の窯跡が発見されており、高知県最大の古窯跡群を形成している。これらの須恵器の窯跡の存在が当地区の名称である「須江」に結びつくことから、須江地区には須恵器の窯跡及び須恵器生産に関わる工房等の施設やこれらの生産施設を統括し、製品の搬出等も行った官衙的施設の存在も想定され、須江地区が古代土佐国にとって重要な地域であったと考えられる。また、松の本地区の北に隣接しては、古代南海道の駅跡と言われる方形区画の跡も見られ、交通の要所としても機能していた可能性がある。

中世における土佐山田町は有力国人である山田氏の支配下にあり、山田城跡（楠目城跡）が山田氏の居城であったと言われている。また、山田城跡以外にも平野部における方形の館跡が存在しており、その中では高柳土居城跡の調査が行われている。高柳土居城跡は物部川右岸に位置しており、河川に近い立地は物部川による水運を意識したものと考えられる。現状では方形館跡の主郭部に土塁の一部が残されており、発掘調査の結果、青磁、白磁等の出土遺物により、15世紀を中心として機能していた高柳土居城跡の状況を知ることができた。

Tab.１　周辺遺跡地名表

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	須江上段遺跡	33	三町遺跡	65	南池知遺跡	97	杖坂古墳
2	須江駅跡	34	浜道の西遺跡	66	池ノ上遺跡	98	中沢古墳
3	須江北遺跡	35	山田三ツ又遺跡	67	八反地遺跡	99	溝渕古墳
4	藁原神社遺跡	36	山田三ツ又東遺跡	68	末松遺跡	100	桜ヶ丘古墳
5	タンガン遺跡	37	長谷川丸遺跡	69	五反地遺跡	101	三畠山古墳
6	植南土居遺跡	38	クロアイ遺跡	70	谷　重遠邸跡	102	前山１・２号古墳
7	植村城跡	39	野々下遺跡	71	公儀の井戸１	103	前山３号古墳
8	西クレドリ遺跡	40	下タ野遺跡	72	公儀の井戸２	104	八王子西古墳
9	モジリカワ遺跡	41	黒土遺跡	73	入野遺跡	105	陣山古墳
10	植カドタ遺跡	42	坂西遺跡	74	三畠城跡	106	高松古墳
11	植キノサキ遺跡	43	中井ノ北遺跡	75	三畠遺跡	107	植田古墳群
12	谷　重遠墓	44	東臼井遺跡	76	山ノ間丸遺跡	108	小山田３号窯跡
13	屋甫田丸遺跡	45	松原丸遺跡	77	野中兼山邸跡	109	西谷１～３号窯跡
14	三反山田遺跡	46	東時光石遺跡	78	西ノ久保古墳	110	東谷松本窯跡
15	入野南遺跡	47	大領遺跡	79	次郎ヶ谷西古墳	111	東谷２号窯跡
16	南ケ内遺跡	48	口戸遺跡	80	次郎ヶ谷古墳	112	東谷１号窯跡
17	改田氏物見の城跡	49	ヤイタ遺跡	81	田村氏古墳	113	林谷３号窯跡
18	松本山長久寺跡	50	下門田遺跡	82	亀ヶ谷２号古墳	114	林谷２号窯跡
19	西谷遺跡	51	神通寺遺跡	83	亀ヶ谷１号古墳	115	林谷１号窯跡
20	勝福寺跡	52	七反田遺跡	84	新改３号古墳	116	大谷１号窯跡
21	東山田遺跡	53	金地遺跡	85	新改２号古墳	117	大谷２号窯跡
22	辻谷田遺跡	54	松原丸下遺跡	86	新改古墳	118	大谷３号窯跡
23	北野遺跡	55	野村丸遺跡	87	新改４号古墳	119	八ヶ谷窯跡
24	寺中遺跡	56	新町遺跡	88	椎山２号古墳	120	植タンガン窯跡
25	植田土居城跡	57	山田三ツ又西遺跡	89	椎山１号古墳	121	岡ノ丸窯跡
26	久次土居城跡	58	東弥市遺跡	90	西ノ内１号古墳	122	植セイガイ窯跡
27	改田神母遺跡	59	有光北鍵山遺跡	91	西ノ内２号古墳	123	西ノ内窯跡
28	ハザマダ遺跡	60	三畠遺跡	92	小山田２号古墳	124	小山田１号窯跡
29	畑ヶ田遺跡	61	白山遺跡	93	小山田１号古墳	125	小山田２号窯跡
30	泉ケ内遺跡	62	水通遺跡	94	須江塚穴古墳		
31	沖ノ土居城跡	63	福重遺跡	95	段貫古墳		
32	野中神社	64	神明遺跡	96	深坂古墳		

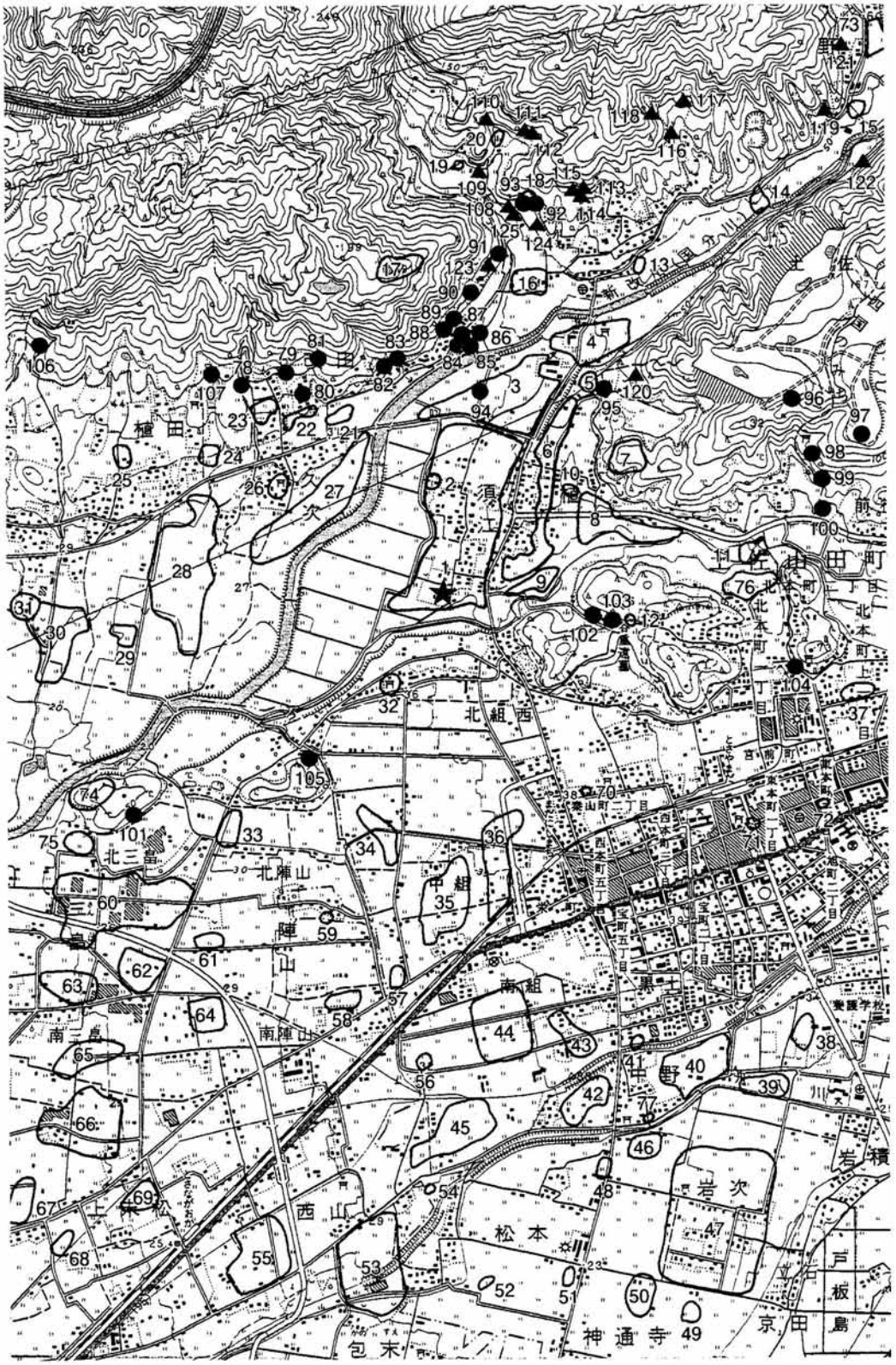


Fig. 3　周辺遺跡分布図

3．調査の概要

（1） 調査の方法

今回の調査対象は、須江上段遺跡の中でもやや北よりに位置している。新改川の古期扇状地である段丘面上の西端部であり、下段の新期扇状地との間には２～３mの段丘崖が発達している。山田北部圃場整備事業に伴う試掘確認調査の結果、段丘下面では流れ込みによる遺物が出土するが遺構は検出されないことから､新改川の氾濫による影響がかなり及んでいるものと考えられた。段丘上面では部分的に黒褐色土（黒ボク土）が厚く堆積しており、土師器、須恵器等が集中出土する地点が確認されるとともに、周辺部の試掘グリッドでは表土直下に地山である砂礫層又は褐色シルト層が検出され、かなり削平を受けている部分も存在することが判明している。

調査実施にあたっては、磁北を基準とする任意のグリッドを設定し、測量と遺物取り上げの基準とした。グリッドは４mグリッドとし、グリッドの名称は、東西方向の基準線をアルファベット、南北方向の基準線をアラビア数字で標記し、グリッドの北西交点をグリッド名称の基点としてアルファベットとアラビア数字の組み合わせにより呼称した。調査は送電線鉄塔用地の内、工事により影響を受ける部分について全面発掘調査を実施することとし、耕作土の除去から開始された。耕作土を除去すると、西半部に黒褐色土が見られ、同層中から遺物の出土も確認された。この黒褐色土を遺物包含層として掘り下げを行ったところ、黄褐色粘質土と地山から掘り込まれたピット等の遺構の存在が明らかとなった。包含層出土の遺物は須恵器片を中心としており、土師器はやや少なく、遺物の出土量全体としても、試掘確認調査における試掘グリッドの出土量からすればやや少ない遺物量であった。

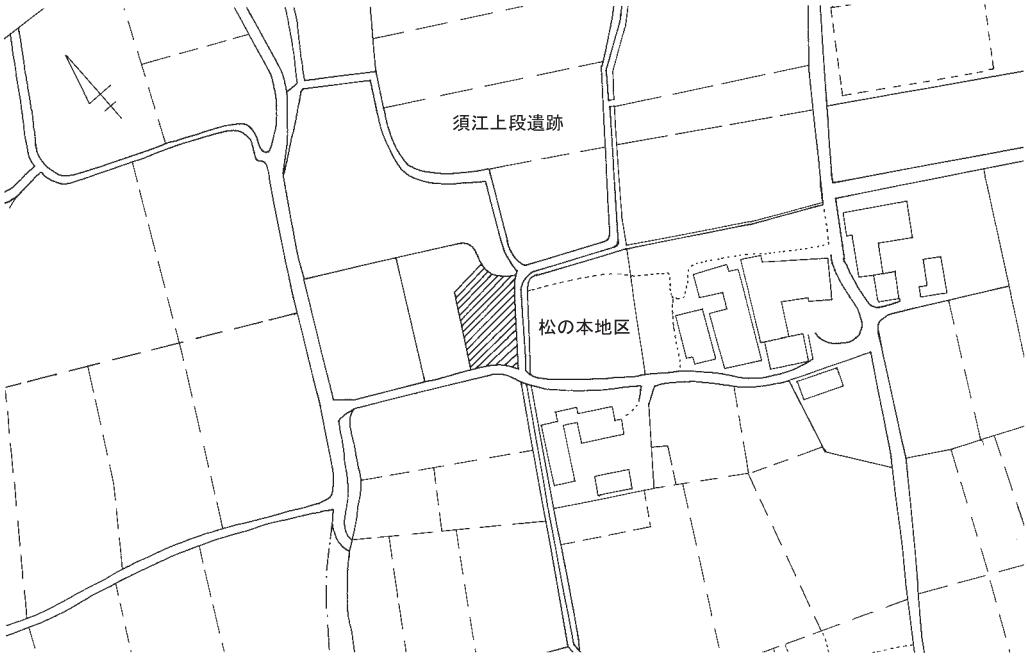


Fig. 4　調査区位置図（S＝1/2,000）

（2）調査の内容

調査内容は、先述のとおり送電線鉄塔建設範囲についての発掘調査であり、狭い面積ではあったが須江上段遺跡の発掘調査としてはオカノハナ地区の調査に次いで2回目であった。オカノハナ地区の調査では下段面ではあったが、溝跡及び河川に対し広がる低地部から多量の土師器、須恵器が出土しており、須恵器生産や流通における古代の重要な地点であったことが推定され、今回の調査においても地点はかなり北に離れるが、遺構、遺物の検出が期待された。

調査は表土除去後、遺物、遺構の検出に努めながら掘り下げ進められた。表土から地表面まで最深では65㎝ほどであり、2層黒褐色土からは須恵器、土師器が出土し、古代及び中世の遺物包含層として確認されると同時に弥生土器も出土し、弥生時代の遺構の存在も考えられた。さらに掘り下げた結果、地山面及び黄褐色土層から掘り込んだ掘建柱建物跡柱や溝跡等の遺構とともに弥生時代の土坑（小竪穴状遺構）も確認され、弥生時代と古代・中世の遺跡として確認され、遺構の状況もほぼ良好であった。

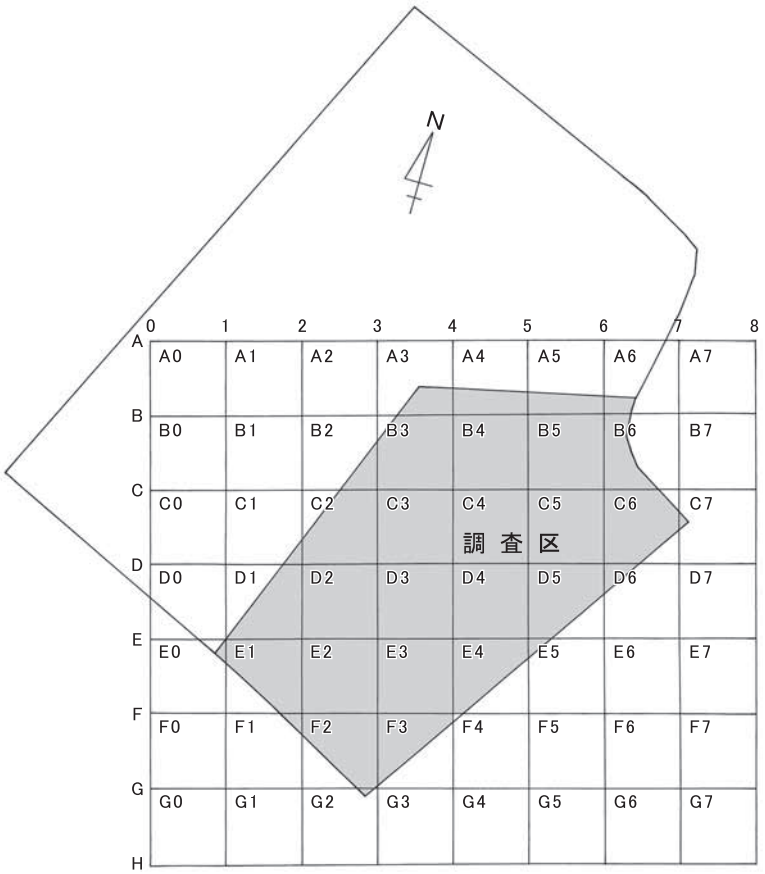


Fig. 5　調査区グリッド設定図（S=1 /200）

4．遺　構

調査区の基本層は以下のとおりである。

１層　表土（耕作土）15～20㎝

２層　黒褐色土　10～30㎝

３層　黄褐色土　10㎝以上

４層　黄褐色砂礫土（地山）

須江上段遺跡の他の範囲と同じように段丘の基盤である黄褐色砂礫土が地山であり、その上に２層黒褐色土の漸移層である３層黄褐色土がみられ、遺構は３層黄褐色土から掘り込まれている状況が確認されている。

また、調査区の東部と西部では微地形の違いにより層序が東から西へ傾斜しており、東半部では１層表土下に４層黄褐色砂礫土が検出されるが、中央部から西部にかけては２層黒褐色土及び３層黄褐色土が徐々に層序を厚くしている。遺構の検出面も東半部では黄褐色砂礫土の地山面に黒色土の埋土によるプランが確認されるが、西半部では２層黒褐色土中またはやや下面の黄褐色土面で遺構プランの検出が行われた。

検出された遺構は、掘建柱建物跡３棟（ＳＢ１～３）、土坑２基（ＳＫ１・２）、溝跡２条（ＳＤ１・２）、柱穴88個（Ｐ１～88）であり、柱穴は掘建柱建物跡の柱穴を除くと66個が確認されたことになる。溝跡ＳＤ１は調査区の南端部で東西方向に検出されており、調査区の南辺に平行しており、現況の畦畔及び道と同じ東西方向を呈している。掘建柱建物跡ＳＢ１もＳＤ１に平行する東西棟の建物であり、ＳＤ１と同じ方向性を持っているが、時期的にみれば溝跡は中世と考えられ、古代と推定される掘建柱建物跡とは時期差があるものと考えられる。ＳＢ1の掘建柱建物跡の規模は２間×５間であり、今回の調査区の中では規模の大きい唯一の建物跡でもある。柱穴は不整方形または楕円形であり、柱根が確認できる柱穴と根石が検出された柱穴が存在している。ＳＢ２は調査区北部で検出されており、１×１間の小規模建物である。ＳＢ３もＳＤ２と同様に柱穴も小さく、調査区西辺部において検出されている。ＳＫ１は調査区の北端に位置する土坑であるが、不整形の楕円形を呈し、弥生土器や石包丁が出土していることからすれば、土坑と言うよりも小竪穴状の遺構と考えられる。柱穴は全体的には調査区の西半部に多く検出されており、直径は30～40㎝の円形及び隅丸方形が中心であるが中には50㎝以上のやや大型の柱穴も存在している。

ＳＫ－１

調査区の北部端に位置する。遺構形状は楕円形で、南北直径約1.4ｍ、東西直約径1.15ｍ、深さ北部で7.2㎝、南部で6.3㎝を計る。西側部分は後世の溝により切られている。遺構床面より遺物番号１の弥生土器の甕（口縁部）、遺物番号２の弥生土器（手捏土器）が出土している。また遺物包含層より弥生時代の遺物として遺物番号25.26.2728が出土している。

ＳＢ－１

調査区中央部南側に位置する。２間×５間の掘立柱建物跡で、検出された掘立柱建物跡では最大規模を有する。間口は約0.7ｍ程度で、柱穴の深さ約20㎝から約40㎝を測る。東西棟の建物で、梁間西側列約7.5ｍで、梁間東側列約６ｍを計る。柱穴の掘り方はほぼ円形、隅丸方形を呈する。掘立柱建物跡南東隅のＰ９には柱穴には根石が検出された。

ＳＢ－２

調査区北側に位置する。１間×１間の掘立柱建物跡である。間口は約２ｍ程度で、柱穴の深さ約6.9㎝から約11.7㎝を測る。南北棟の建物で、梁間北側列約1.7ｍで、梁間南側列約1.7ｍを計る。柱穴の掘り方はほぼ円形である。

掘立柱建物跡の柱穴からは、遺物番号９・11・12・13・14・17・18・19・20の土師器、須恵器が出土している。

ＳＢ－３

調査区北よりの西端に位置する掘立柱建物跡である。南北列３間×不明で、間口約1.5ｍである南北列約４ｍを計る。柱穴の深さ約7.8㎝から９㎝を計る。柱穴の掘り方形状は円形である。

ＳＤ－１

調査区南部の端に位置し東西に走る。検出面の幅約45㎝、溝底部の幅約25㎝で、深さは東端部で約48.5㎝、西端部で28.3㎝を計る。底部のレベルは東から西に傾斜する。溝跡からの遺物は土師質土器が出土している。

５．遺　物

本調査区からは、遺構、遺物包含層より弥生土器、石包丁、須恵器、土師器、土師質土器、布目瓦、土錘、砥石が出土している。詳細は遺物観察表を参照していただき、主な遺物について述べる。

実測図版番号１は、弥生土器の甕で胎土は0.5～２㎜大の砂粒を含む。焼成は良好で、外面には撫でによる調整と口縁部下に貼り付けを施している。２は手捏土器で、胎土には細砂粒を含み撫でと指圧による調整がみられる。0.2㎜の小孔がある。３の石包丁は全長106㎝、全幅5.0㎝、厚さ0.6㎜である。ともにＳＫ－１より出土している。他の弥生持代の遺物としては、番号14・25・29は甕で、番号26・27は壷である。

古代の遺物は、番号4・9・10・11・12・18・31・32・33・34・36・37・38・39・40・41・42は須恵器の椀で、胎土は砂粒を含み、ロクロによる調整形成が見られ、焼成はほぼ良好である。

土師器は図５・15・24・49・50の遺物で壷、甕、杯、椀の器種がみられ、ロクロによる調整が施されている。また胎土の焼成は良好である。図22の土師器の杯は外面に篦によるヨコ調整の磨

きがみられ、内面は篦による暗文がみられる。53の布目瓦は平瓦の一部である。焼成は良好である。

中世の遺物としては図6・8・51の土師質土器が出土している。器種は杯、皿である。53の杯底部には回転糸切りが残る。焼成はどれも良好である。

他に52の土錘、54の砥石が出土している。

Tab. 2　遺物観察表

実測番号 No.	図版番号 No.	写真番号 No.	出土地点 遺構・層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他
1	1	1	SK-1	弥生土器	甕	17.0			0.5～2mm大の砂粒を含む	良	内面： 外面：10YR8/4浅黄橙 断面：	撫で調整/口縁部貼り付け
2	2	2	SK-1	弥生土器	手づくね土器			4.0	細砂粒を含む	良	内面： 外面：にぶい橙5YR7/4 断面：	撫でと指圧調整/0.2mmの小穴あり
3	3	3	SK-1	石庖丁		全長10.6	全幅5.0	全厚0.6	石		内面：灰色 外面：灰色 断面：	
4	4	4	SD-1	須恵器	椀(底部)			10.6	細砂粒を含む	良	内面：灰黄褐10YR6/2 外面：黄灰2.5Y6/1 断面：	ロクロ調整/貼り付け高台
5	5	5	SD-1	土師器	壺(口縁部)	11.6			細砂粒を含む		内面：橙2.5YR6/6 外面：橙2.5YR6/6 断面：	ロクロ調整
6	6	6	SD-1	土師質土器	杯(口縁部)	13.2			細砂粒を含む	良	内面：にぶい橙5YR6/4 外面：にぶい橙5YR6/4 断面：	ロクロ調整
7	7	7	P-26	須恵器	甕(口縁部)	34.0			細砂粒を含む		内面：灰黄色 外面：灰白色 断面：	
8	8	8	SD-1	土師質土器	杯(底部)			3.8	細砂粒を含む	良	内面：にぶい橙5YR6/4 外面：にぶい橙5YR6/4 断面：	ロクロ調整
9	9	9	P-18	須恵器	椀(口縁部)	20.0			細砂粒を含む	良	内面：灰Y6/1 外面：灰Y6/1 断面：	ロクロ調整
10	10	10	P-23	須恵器	椀	14.4			細砂粒を含む	良	内面：白灰10YR7/1 外面：白灰10YR7/1 断面：	ロクロ調整
11	11	11	P-9	須恵器	椀(底部)			9.4	0.5～2mm大の砂粒を含む	良	内面：灰7.5Y5/1 外面： 断面：	ロクロ調整
12	12	12	P-23	須恵器	椀(底部)			12.4	細砂粒を含む	良	内面：灰色N6 外面：灰色N6 断面：	
13	13	13	P-17	須恵器	蓋	15.4			細砂粒を含む		内面：灰色 外面：灰色 断面：	
14	14	14	P-26	弥生土器	甕(口縁部)	18.6			0.5～3mm大の砂粒を含む		内面：にぶい橙7.5YR7/3 外面：にぶい橙7.5YR7/3 断面：	
15	15	15	2層	土師器	甕(口縁部)				0.5～32mm大の砂粒を含む	良	内面：にぶい橙5YR6/4 外面：にぶい橙5YR6/4 断面：	
16	16	16	P-86	須恵器	壺(口縁部)	7.8			細砂粒を含む	良	内面：灰白2.5Y7 外面：灰白5Y6 断面：灰白2.5Y7	ロクロ調整
17	17	17	P-75	須恵器	杯	16.6			細砂粒を含む		内面：灰N6/1 外面：黄灰2.5Y6/1 断面：	ロクロ調整
18	18	18	3層包含層	須恵器	椀(底部)			10.6	細砂粒を含む	良	内面：青灰色 外面：青灰色 断面：	ロクロ調整
19	19	19	P-77	須恵器	椀(底部)			9.5	0.1～0.2mm大の砂粒を含む	良	内面：灰色N6 外面：灰色N6 断面：	
20	20	20	P-32	須恵器	蓋	15.8			細砂粒を含む	良	内面：灰白2.5Y7 外面：灰白2.5Y7 断面：	
21	21	21	3層包含層	須恵器	蓋	15				不良	内面：淡黄色 外面：淡黄色 断面：	
22	22	22	P-81	土師器	杯	11.2	2.7		精緻な胎土	良	内面：赤芬橙 外面：赤芬橙 断面：	表面はヨコの磨き、内面は暗文
23	23	23	P-77	須恵器	皿	10.8	2.0		細砂粒を含む	良	内面： 外面： 断面：	
24	24	24	P-2	土師器					0.1～1mm大の砂粒を含む		内面：にぶい橙 外面：にぶい橙 断面：	

25	25	25	P-32	弥生土器	甕 (口縁部)	12.0			0.5～2mm大の砂粒を含む		内面：にぶい橙5YR6/6 外面：にぶい橙5YR6/6 断面：黒褐色5YR2/1	口縁部下に刻み突あり
26	26	26	3層 包含層	弥生土器	壺 (口縁部)	31.0			0.5～2mm大の砂粒を含む		内面：橙5YR6/6 外面：橙5YR6/6 断面：	
27	27	27	3層 包含層	弥生土器	壺 (口縁部)	15.0			0.5～3mm大の砂粒を含む		内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：にぶい橙7.5YR7/4 断面：	
28	28	28	3層 包含層	弥生土器	(底部)			7.0	0.5～2mm大の砂粒を含む		内面：灰黄褐10YR6/2 外面：灰黄褐10YR5/2 断面：	内外に指圧調整
29	29	29	3層 包含層	弥生土器	甕 (口縁部)	26.0			0.5～2mm大の砂粒を含む		内面：にぶい赤褐2.5YR4/4 外面：にぶい赤褐2.5YR5/4 断面：	
30	30	30	3層 包含層	須恵器	甕 (口縁部)	21.0			砂粒を含む		内面：灰色 外面：灰色 断面：	
31	31	31	2層	須恵器	椀 (口縁部)	11.2			細砂粒を含む	良	内面：灰白5Y7 外面：灰白N6 断面：灰白5Y7	
32	32	32	3層 包含層	須恵器	椀 (底部)			9.8	細砂粒を含む	良	内面：灰白5Y7 外面：灰白7.5Y7 断面：灰白5Y7	
33	33	33	3層 包含層	須恵器	椀 (底部)			14.4	細砂粒を含む		内面：褐色10YR5/1 外面：灰白N4 断面：灰黄褐色10YR5/2	
34	34	34	3層 包含層	須恵器	椀 (底部)			9.2	細砂粒を含む	良	内面：黄灰色2.5Y6/1 外面：黄灰色2.5Y6/2 断面：	
35	35	35	3層 包含層	須恵器	杯 (底部)			10	細砂粒を含む	良	内面：褐灰色 外面：褐灰色 断面：	
36	36	36	P-31	須恵器	椀 (底部)			1.6	細砂粒を含む	良	内面：明黄褐10YR7/6 外面：にぶい黄橙10YR7/2 断面：	
37	37	37	3層 包含層	須恵器	椀 (底部)			10.0	細砂粒を含む	良	内面：黄灰色2.5Y6/1 外面：黄灰色2.5Y6/1 断面：	
38	38	38	2層	須恵器	椀 (底部)			10.8	0.1～2mm大の砂粒を含む		内面：灰N6/1 外面：灰N6/1 断面：紫灰5P6/1	
39	39	39	2層	須恵器	椀 (底部)			10.0	細砂粒を含む		内面：灰色7.5Y6 外面：灰色7.5Y6 断面：灰色7.5Y6	
40	40	40	2層	須恵器	椀 (底部)			8.8	細砂粒を含む	良	内面：灰黄褐色10YR6/2 外面：黄灰2.5YR5/1 断面：	
41	41	41	2層	須恵器	椀 (底部)			11.2	0.5mmの砂粒を含む	良	内面：暗オリーブ 外面：暗オリーブ 断面：	
42	42	42	3層 包含層	土師器	椀 (底部)			13.0	0.1～2mm大の砂粒を含む		内面：赤色10R5/6 外面：明黄褐25YR5/2 断面：にぶい黄橙10YR7/4	
43	43	43	3層 包含層	須恵器	蓋	14.0			砂粒を含む	良	内面：灰色 外面：灰色 断面：	
44	44	44	3層 包含層	須恵器	蓋	14.8			細い砂粒を多く含む	良	内面：灰色N7 外面：灰色N7 断面：	
45	45	45	3層 包含層	須恵器	蓋				砂粒を含む	良	内面：黄灰2.5Y6/1 外面：黄灰2.5Y7/2 断面：	
46	46	46	2層	須恵器	蓋				砂粒を含む	良	内面：灰色N7 外面：灰色N7 断面：	
47	47	47	3層 包含層	須恵器	蓋				砂粒を含む	良	内面：にぶい橙7.5YR7/4 外面：にぶい橙7.5YR7/4 断面：	
48	48	48	2層	須恵器	蓋				砂粒を含む	良	内面：灰5Y6/1 外面：灰5Y6/1 断面：	記号あり（窯印）
49	49	49	2層	土師器	甕	28.0			砂粒を多く含む		内面：にぶい橙7.5YR6/4 外面：にぶい橙7.5YR6/4 断面：	内外面にヨコ刷毛調整
50	50	50	3層 包含層	土師器	椀 (口縁部)	22.6			0.2～0.4mmの砂粒と赤チャートを含む	良	内面：褐色10YR5/1 外面：にぶい褐色 断面：赤褐色	
51	51	51	2層	土師質 土器	皿	7.6	1.45	4.8	細い砂粒を多く含む		内面：浅黄橙色 外面：浅黄橙色 断面：浅黄橙色	
52	52	52	2層	土錘		全長 4.9	全幅 2.1	全厚 1.8			内面： 外面：橙色7.5YR7/6 断面：浅黄橙10YR6/3	重量15.9g
53	53	53	3層 包含層	布目瓦						良	内面：灰色N7 外面：灰色N7 断面：	底部に回転糸切り
54	54	54	3層 包含層	砥石							内面： 外面： 断面：	

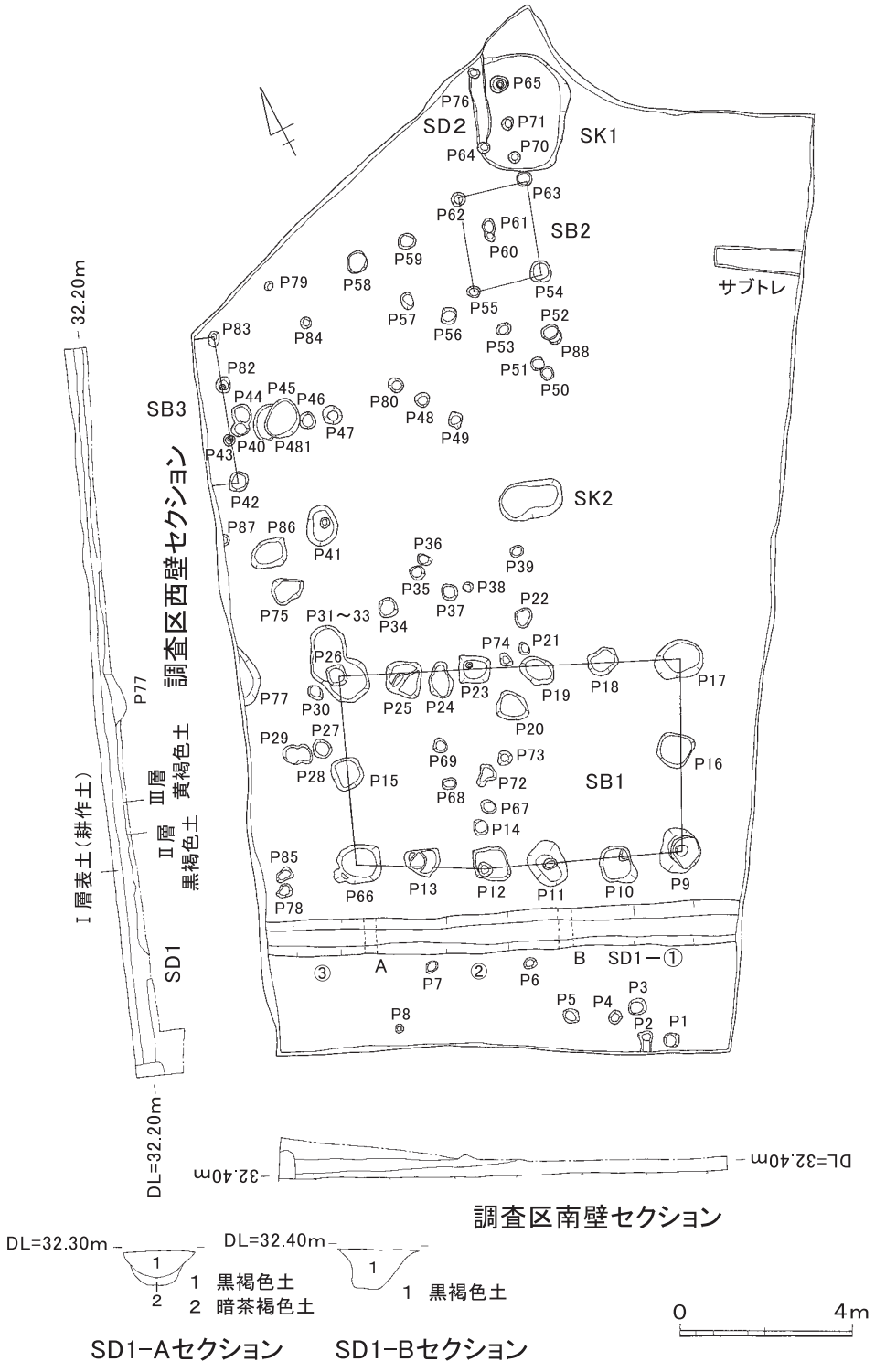


Fig. 6 調査区遺構全体図・土層図（S＝1／80）

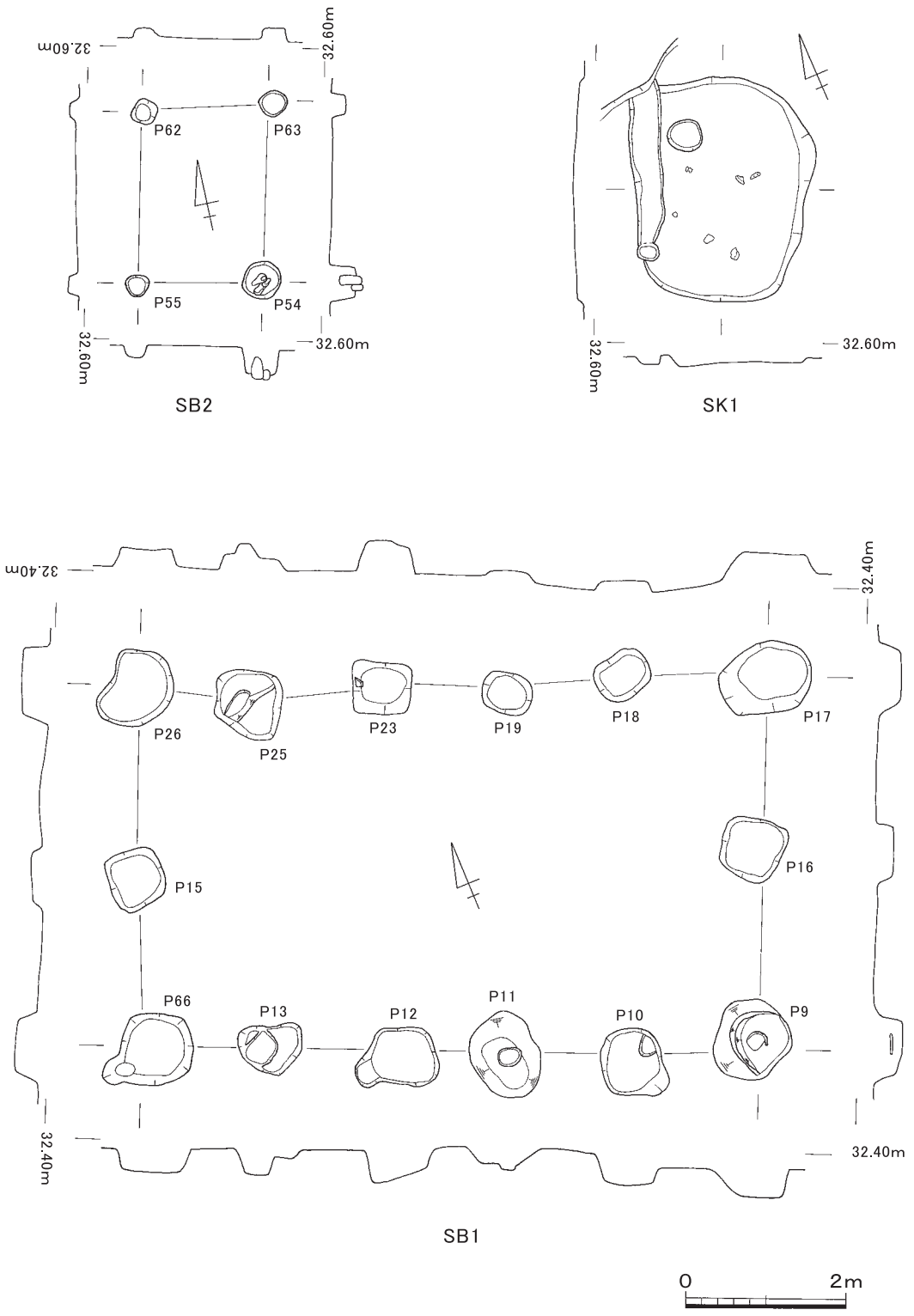


Fig. 7　ＳＢ１・２，ＳＫ１平面・断面図（Ｓ＝１／40）

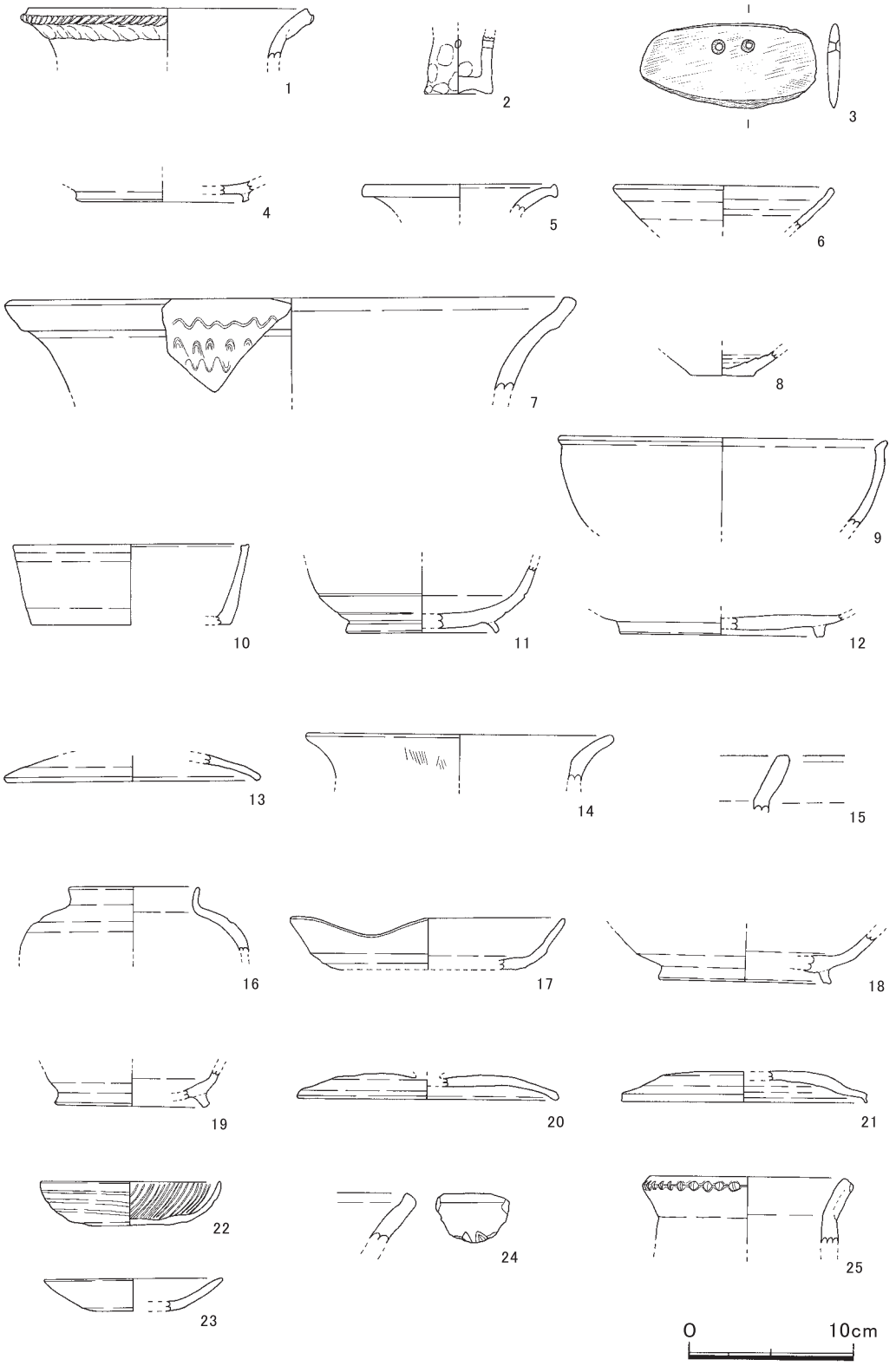


Fig. 8　遺構及び包含層出土遺物1

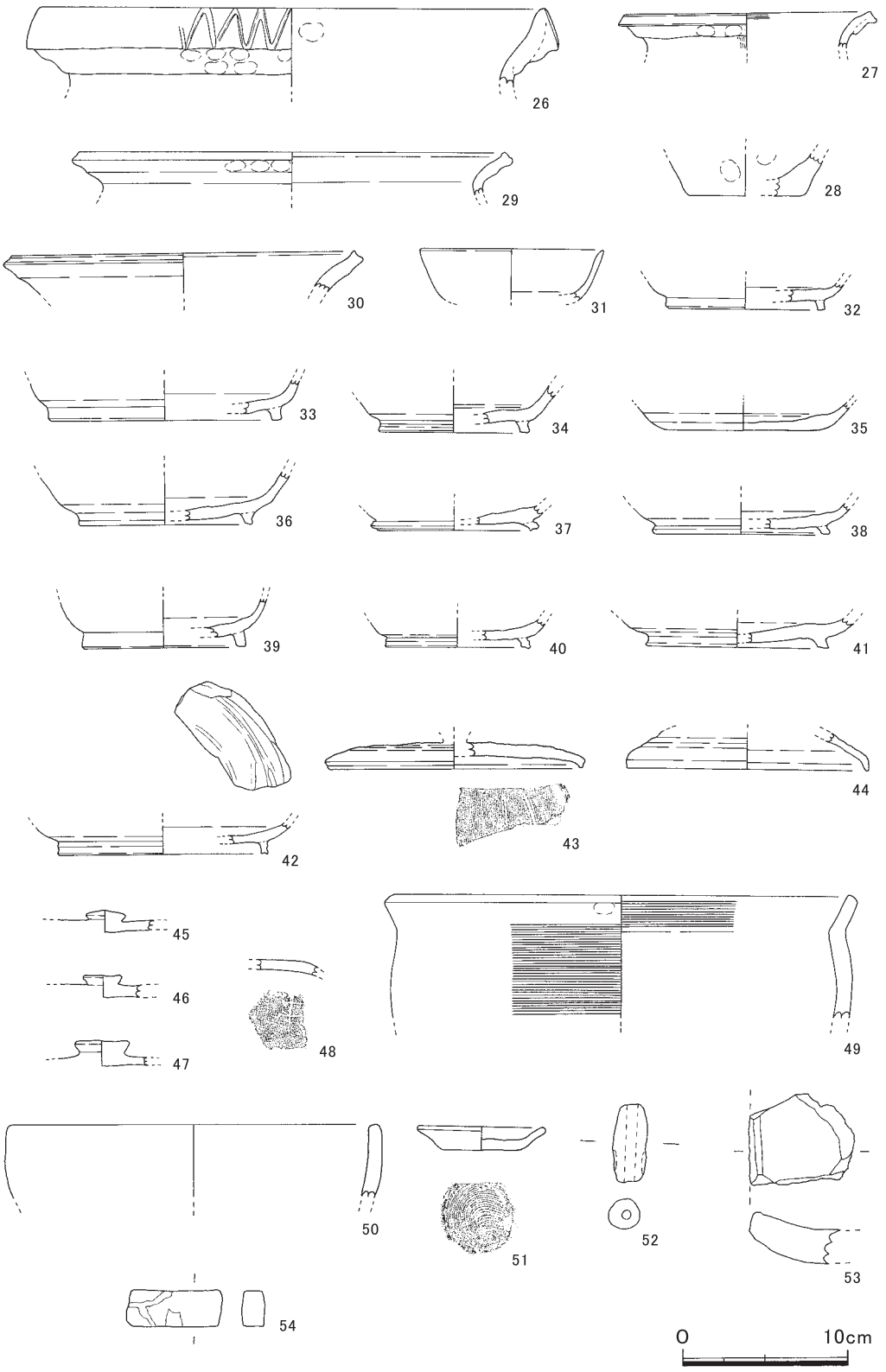


Fig. 9　包含層出土遺物２

６．調査の成果

検出された遺構は、掘建柱建物跡３棟（ＳＢ１～３）、土坑２基（ＳＫ１・２）、溝跡２条（ＳＤ１・２）、柱穴88個（Ｐ１～88）であり、柱穴は掘建柱建物跡の柱穴を除くと66個が確認されたことになる。溝跡ＳＤ１は調査区の南端部で東西方向に検出されており、調査区の南辺に平行しており、現況の畦畔及び道と同じ東西方向を呈している。掘建柱建物跡ＳＢ１もＳＤ１に平行する東西棟の建物であり、ＳＤ１と同じ方向性を持っているが、時期的にみれば溝跡は中世と考えられ、古代と推定される掘建柱建物跡とは時期差があるものと考えられる。ＳＢ１の掘建柱建物跡の規模は２間×５間であり、今回の調査区の中では規模の大きい唯一の建物跡でもある。柱穴は不整方形または楕円形であり、柱根が確認できる柱穴と根石が検出された柱穴が存在している。ＳＢ２は調査区北部で検出されており、１×１間の小規模建物である。ＳＢ３もＳＤ２と同様に柱穴も小さく、調査区西辺部において検出されている。ＳＫ１は調査区の北端に位置する土坑であるが、不整形の楕円形を呈し、弥生土器や石包丁が出土していることからすれば、土坑と言うよりも小竪穴状の遺構と考えられる。柱穴は全体的には調査区の西半部に多く検出されており、直径は30～40㎝の円形及び隅丸方形が中心であるが中には50㎝以上のやや大型の柱穴も存在している。

出土遺物の大半は２層黒褐色土出土の須恵器、土師器であり、掘建柱建物跡柱跡、溝跡、土坑等からの遺物はあまり多くなく、遺構の時期を考える上では十分とは言えなかった。時期的には弥生土器も一部みられるが、須恵器及び土師器を中心とし土師質土器も出土しており、弥生時代と古代から中世の遺構、遺物であった。

ハザマダ遺跡

― キシロ地区 ―

1．調査に至る経緯と経過

山田北部県営圃場整備事業施工に伴い、四国電力株式会社の所有する高圧送電線鉄塔の移転が必要となり電線鉄塔建設が計画されたことから、当該地の周知の埋蔵文化財包蔵地である南国市植田に所在するハザマダ遺跡について発掘調査による確認記録の措置がとられることとなり、県教育委員会の指導のもと、原因者である四国電力㈱との協議により、㈶高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、四国電力㈱の委託を受け実施した。ハザマダ遺跡－キシロ地区－の調査期間は平成３年11月５日から11月17日であり、調査面積は40㎡であった。発掘調査は㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第２係調査員中山泰弘が調査担当者となり発掘調査から報告書作成を行った。発掘調査にあたっては、四国電力㈱、南国市教育委員会、土佐山田町教育委員会、地元の南国市植田地区、土佐山田町須江地区の皆様にご協力をいただいた。

ハザマダ遺跡－キシロ地区－の調査略号は91－23ＨＫである。

2．調査の結果

高圧送電線鉄塔建設地にトレンチを２箇所設定し確認調査を実施した。基本層位は、第１層は表土（耕作土）、第２層は褐色土層であった。第２層には細片の土師質土器片がみられる。

遺構は検出されず、本調査には至らず調査を終了した。

写真１．ＴＲ１調査状況

写真２．ＴＲ２調査状況

Fig. 1　ハザマダ遺跡キシロ地区位置図（S＝1/100,000）

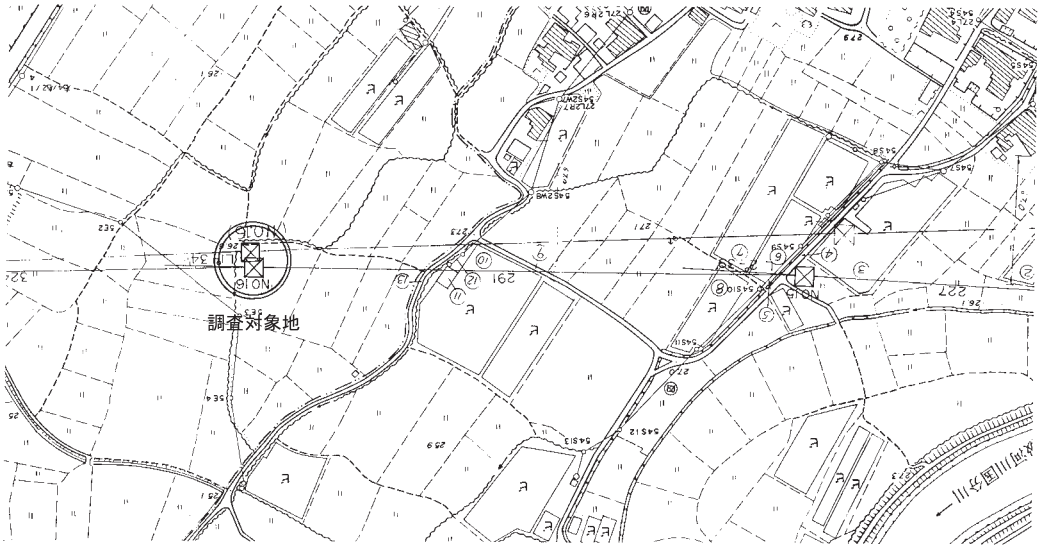


Fig. 2　ハザマダ遺跡キシロ地区調査対象地

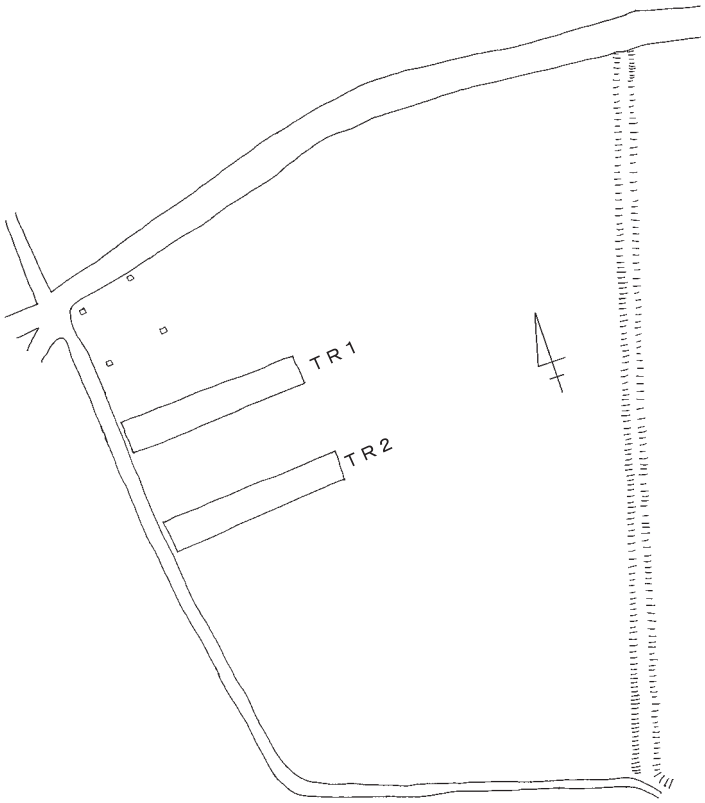


Fig. 3　調査トレンチ設定図（S＝1/250）

写 真 図 版

PL．1

遺跡遠景（南西より）

遺跡近景（北より）

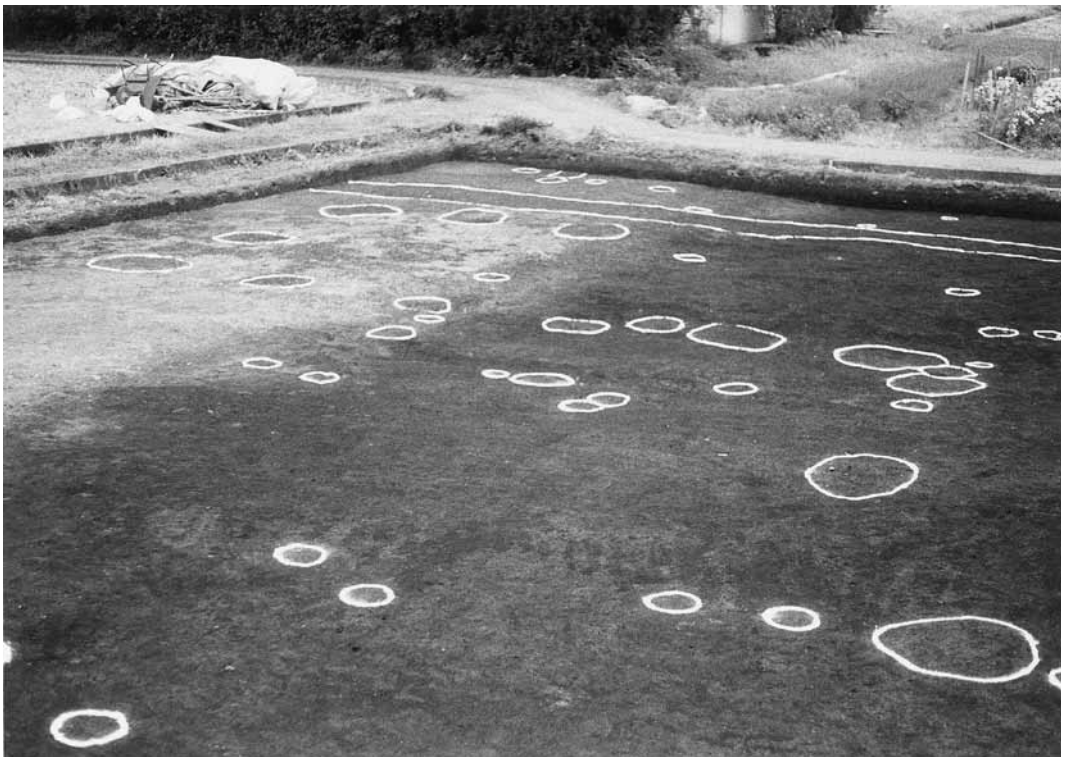
PL. 2

遺構検出状態　南半部（東より）

遺構検出状態　北半部（東より）

PL. 3

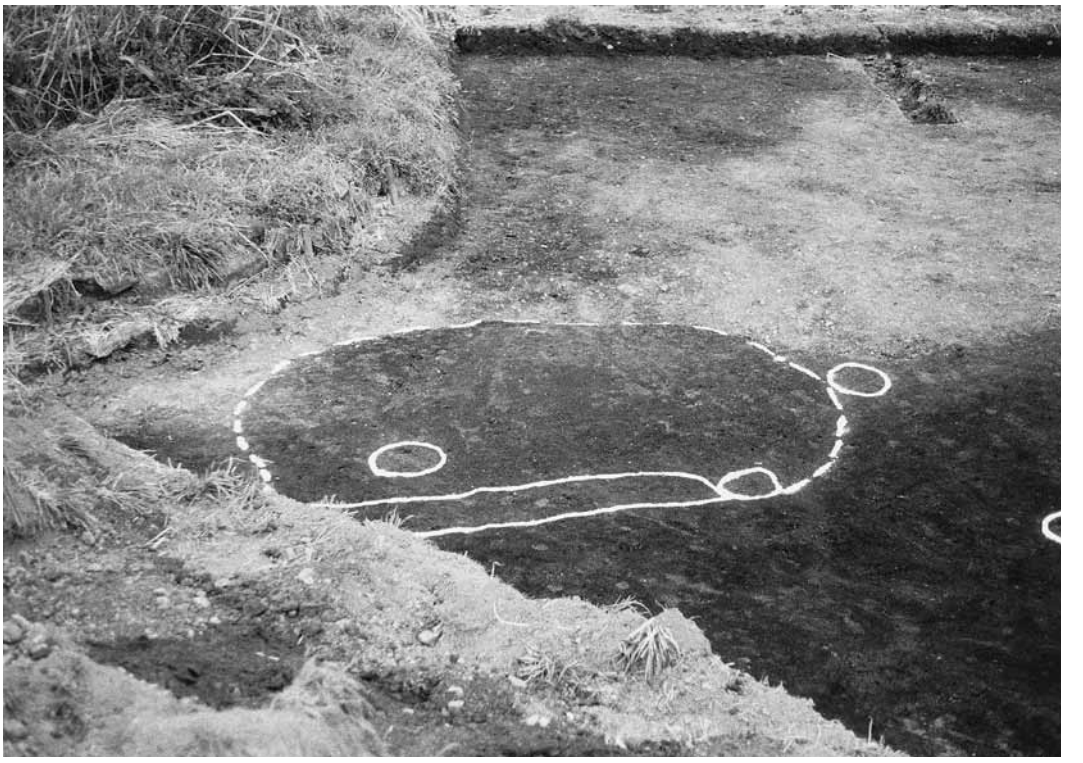
遺構検出状態（南より）



遺構検出状態（北より）

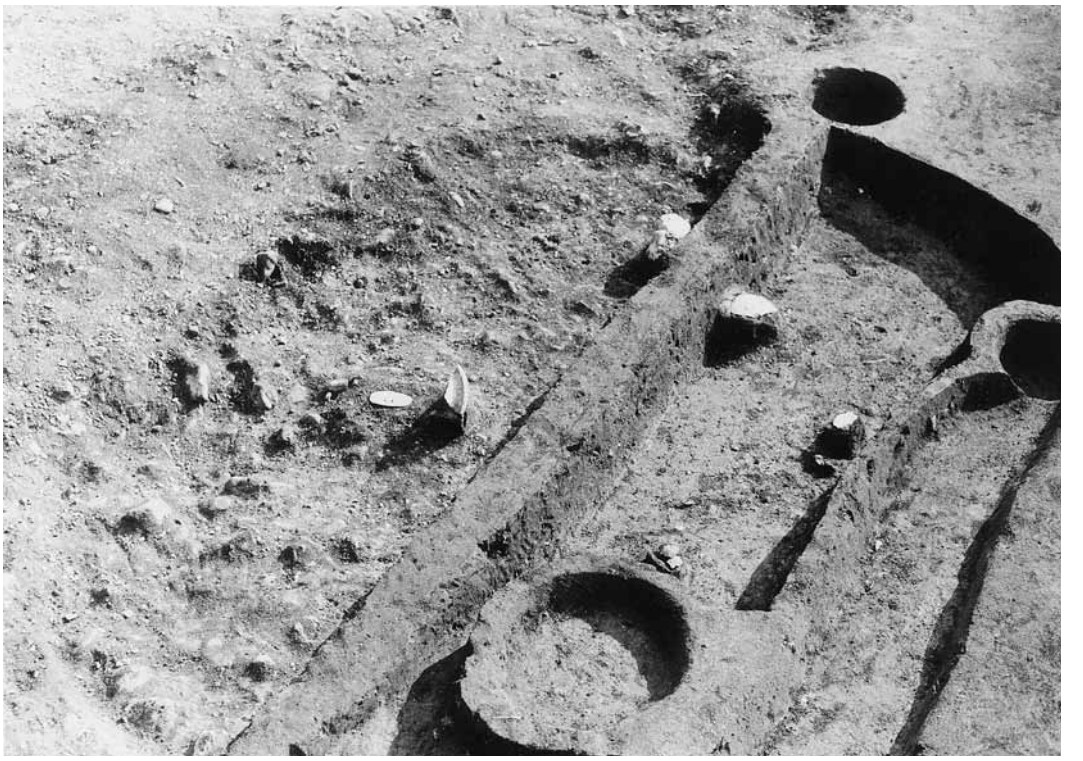
PL．4

遺構検出状態（北東より）

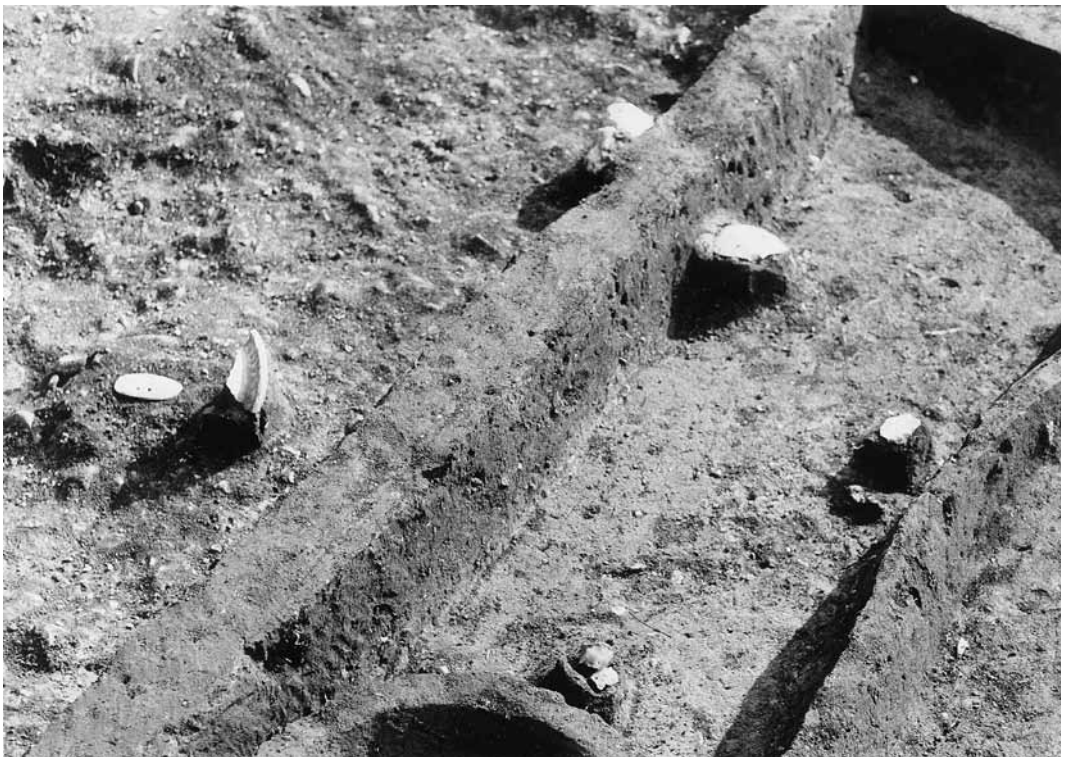


ＳＫ１検出状態

PL．5

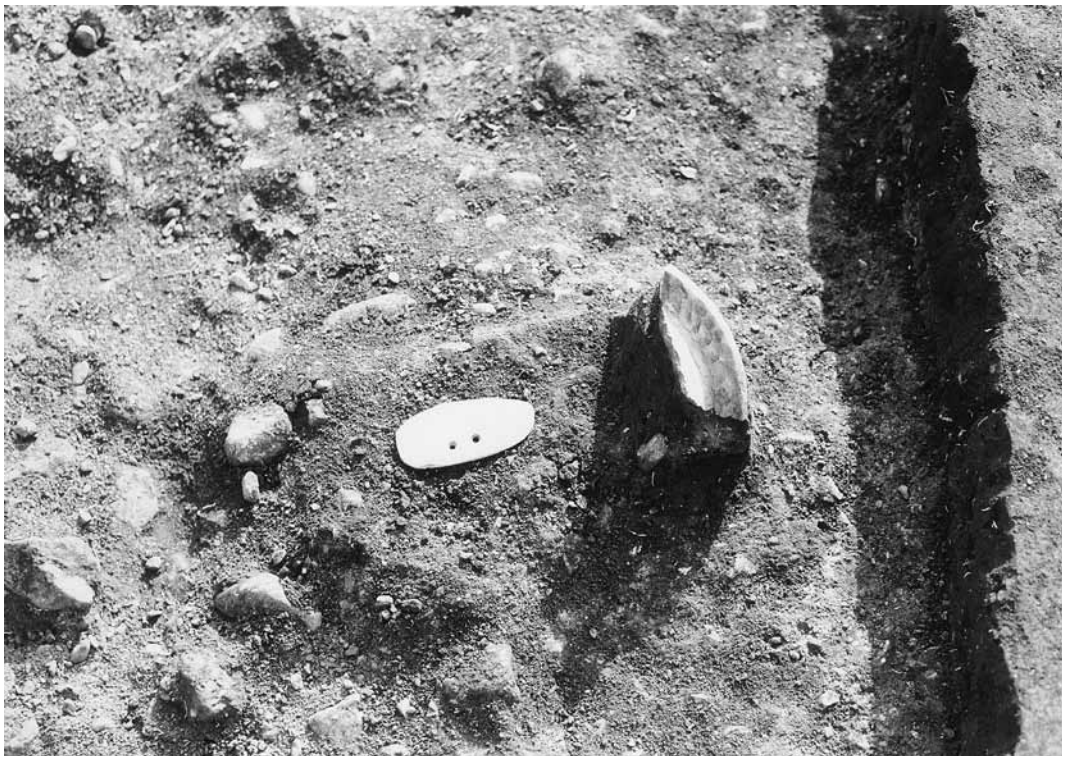


ＳＫ１遺物出土状態



ＳＫ１埋土状況

PL. 6

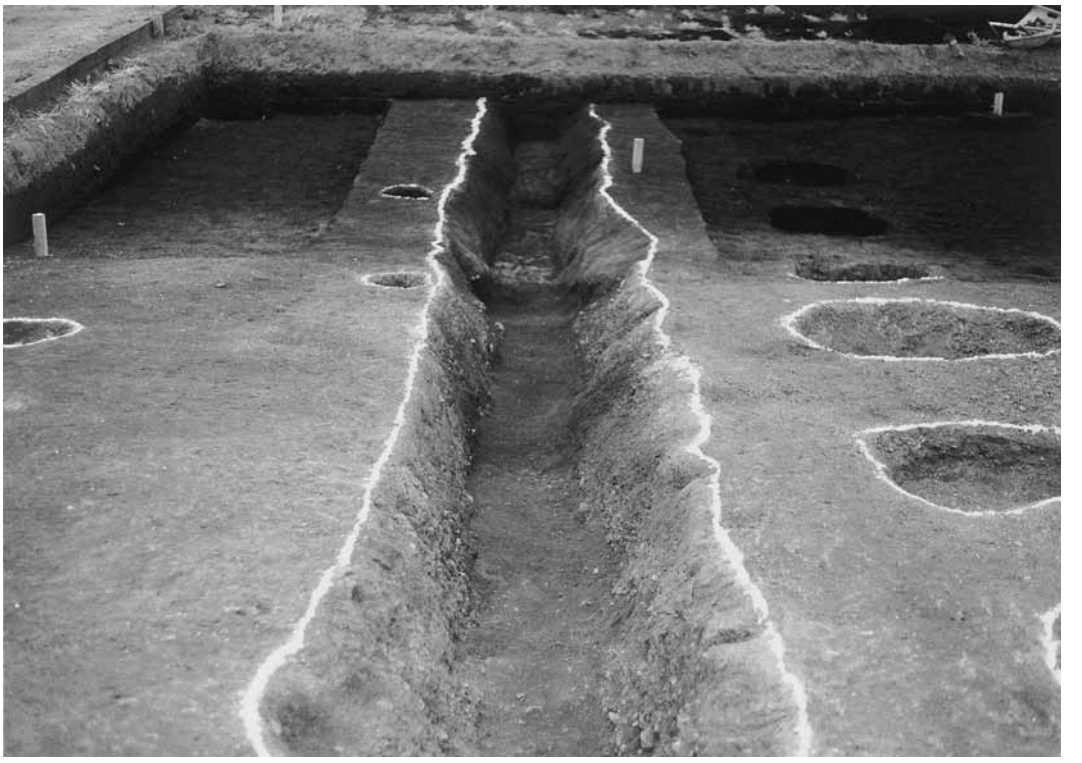


ＳＫ１石包丁出土状態

ＳＫ１完掘状態

PL．7

ＳＤ１検出状態



ＳＤ１完掘状態

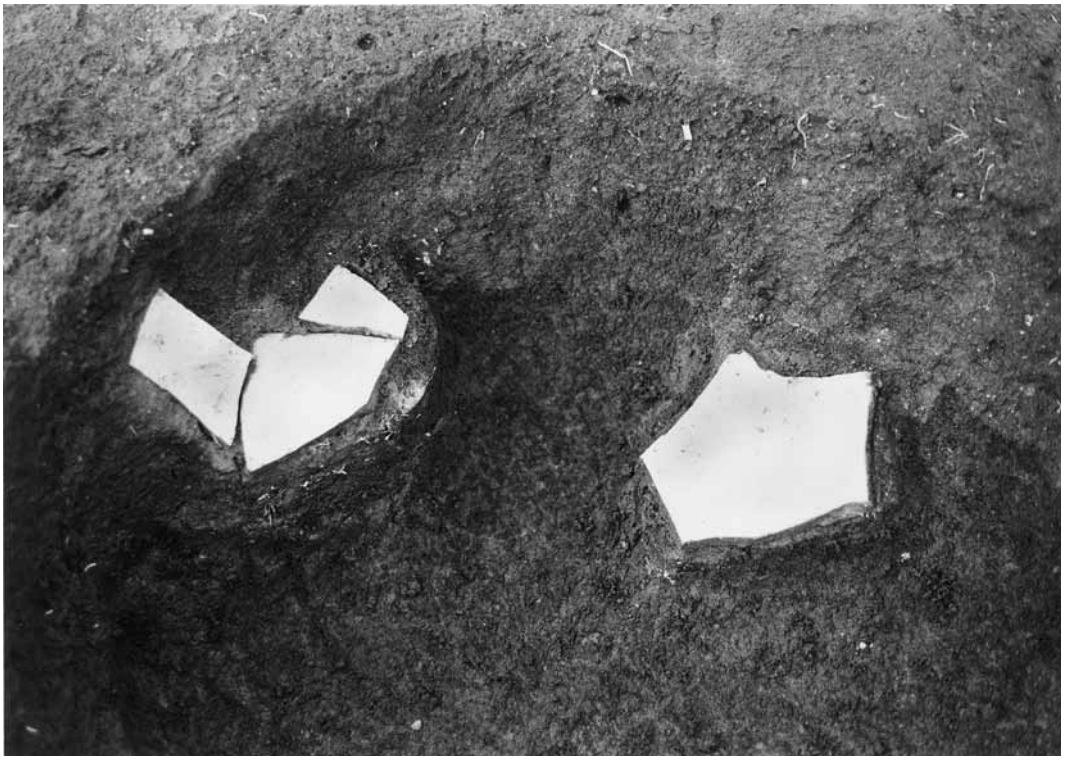
PL．8

ＳＢ１柱穴須恵器出土状態

ＳＢ１柱穴出土須恵器

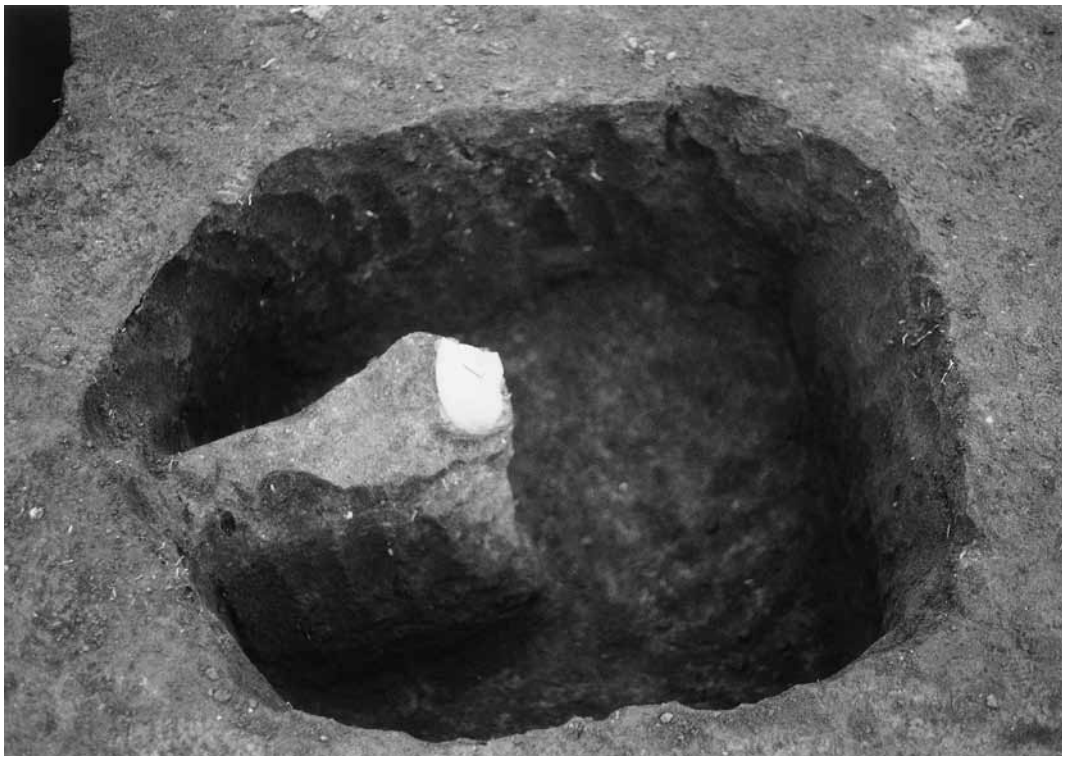
PL．9

ＳＢ１柱穴須恵器出土状態



ＳＢ１柱穴出土須恵器

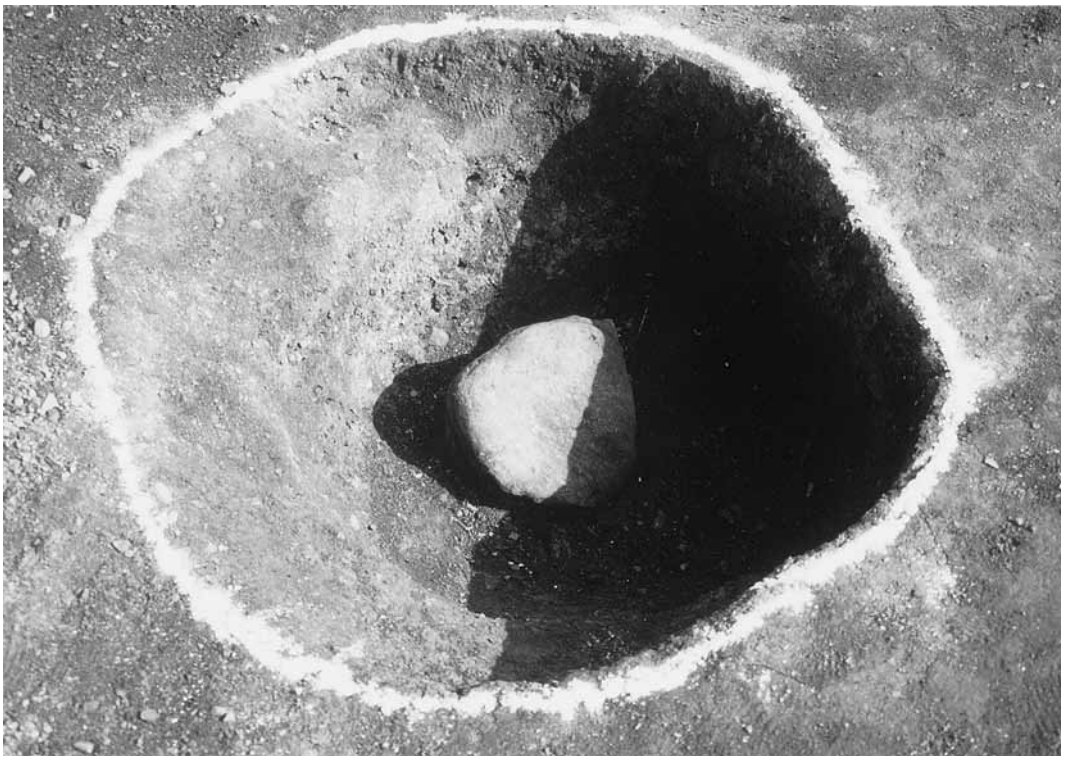
PL.10



ＳＢ１柱穴土師器出土状態

ＳＢ１柱穴出土土師器

PL.11

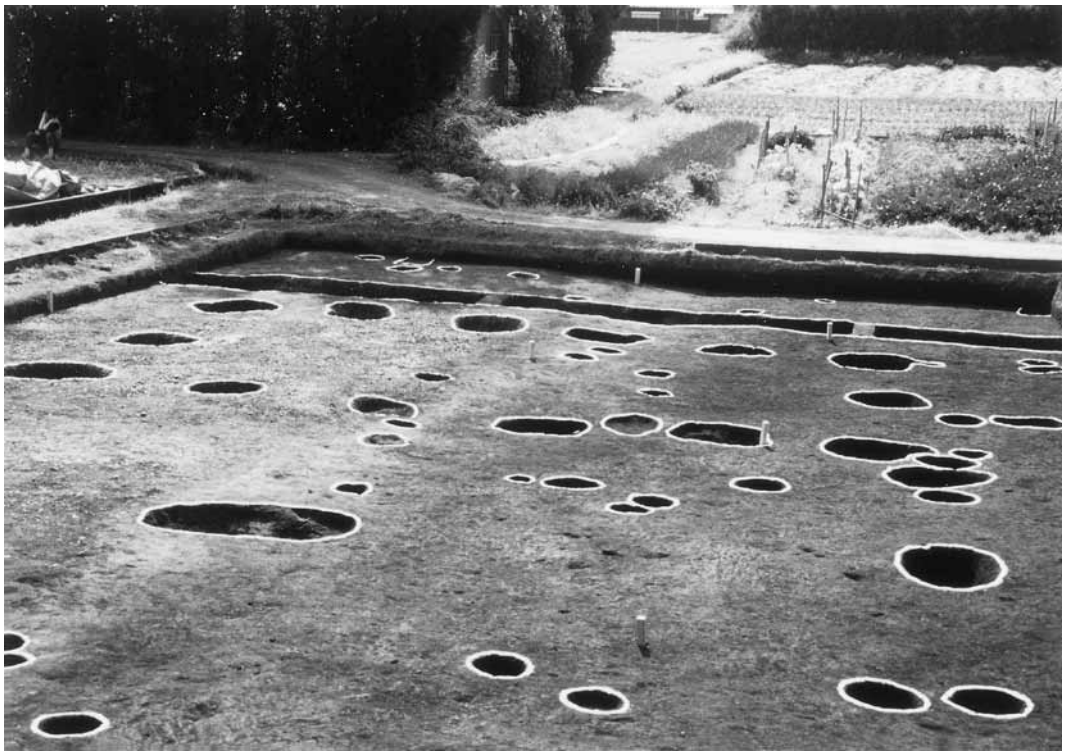


ＳＢ１柱穴根石出土状態

ＳＢ１柱穴根石出土状態

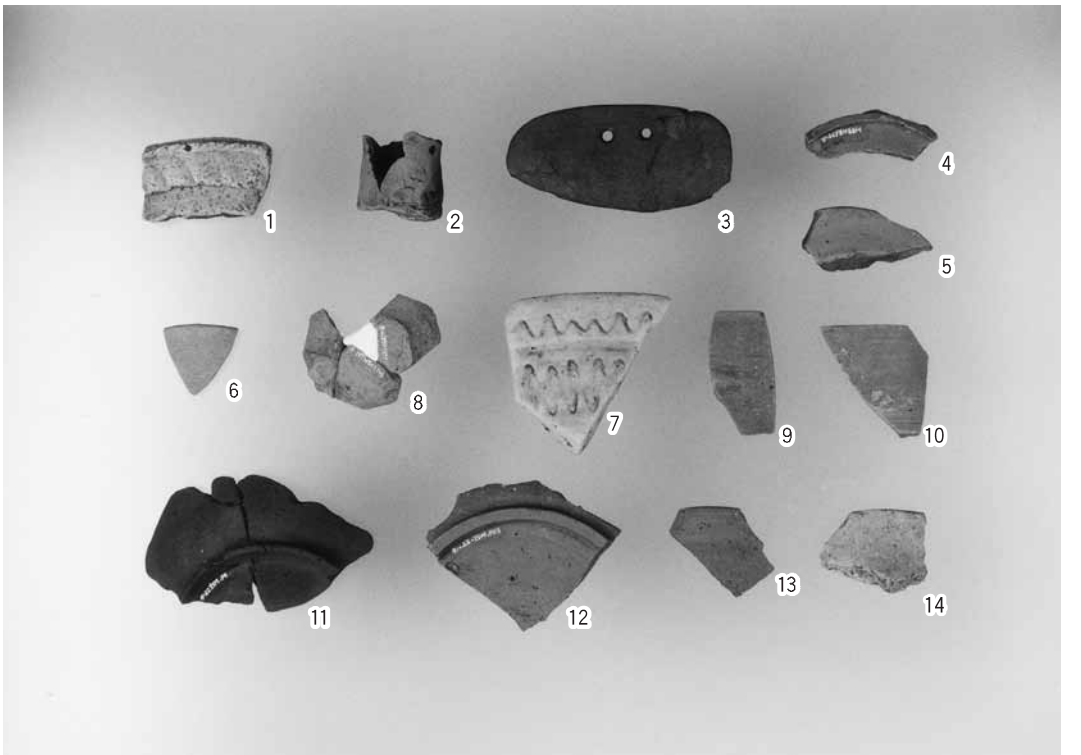
PL.12

調査区完掘状態（北より）



ＳＢ１完掘状態（北より）

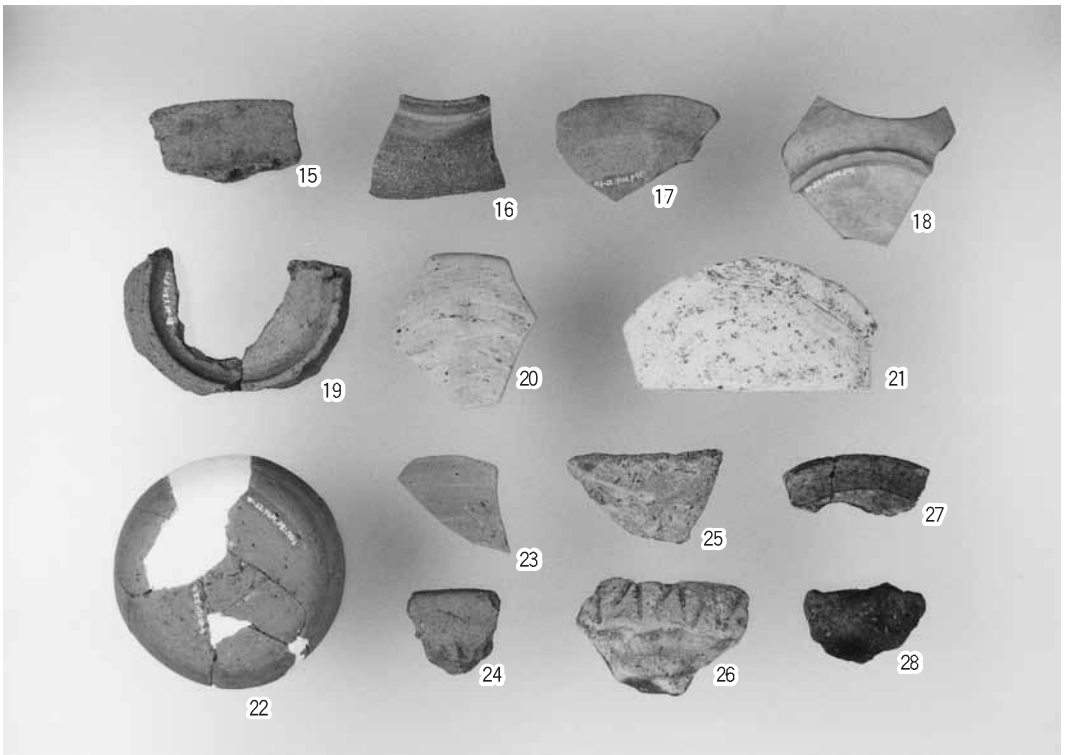
PL.13



出土遺物１（表）

出土遺物１（裏）

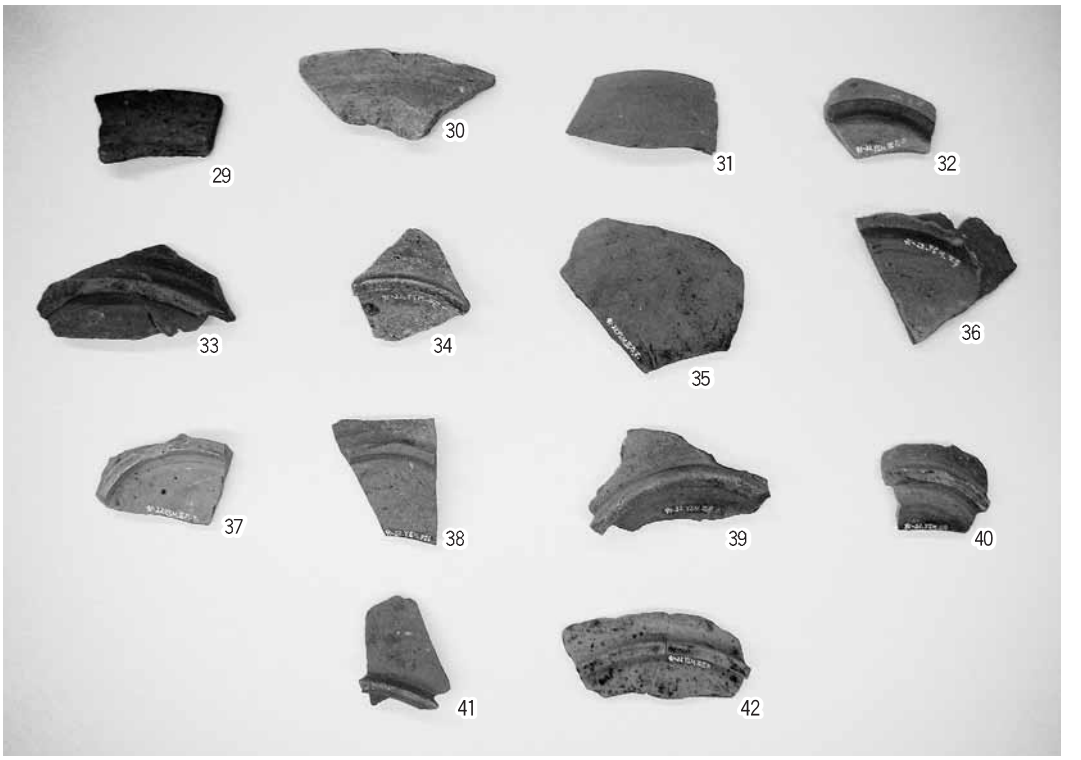
PL.14



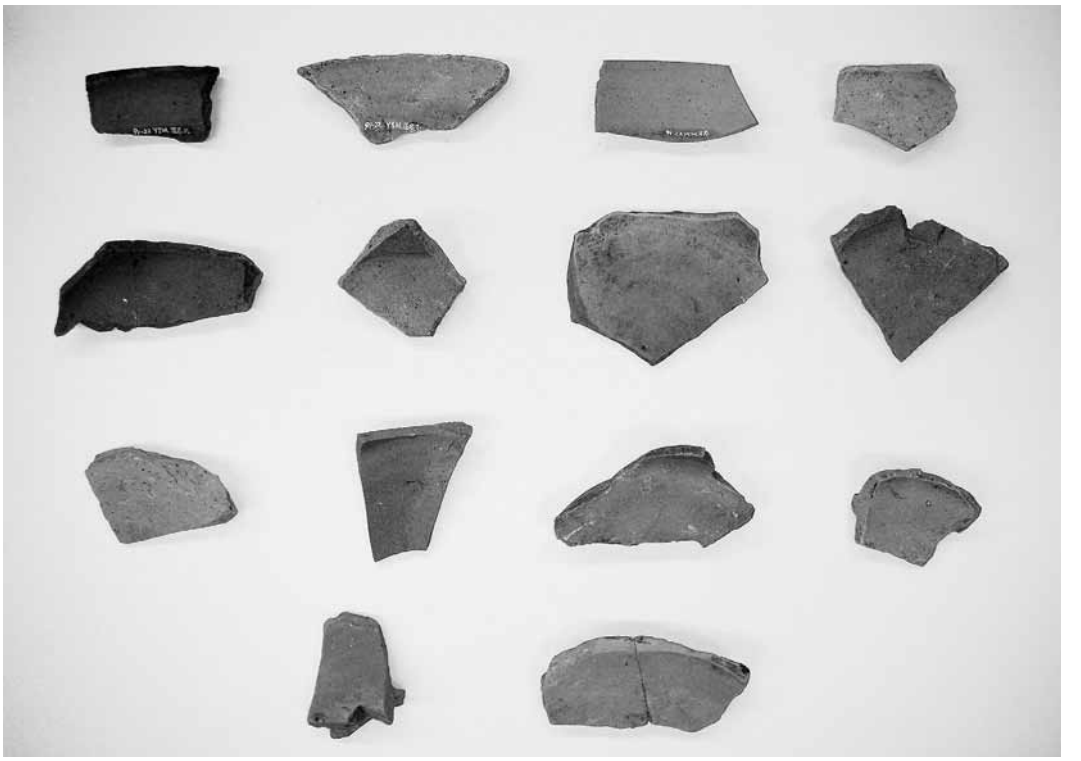
出土遺物２（表）

出土遺物２（裏）

PL.15

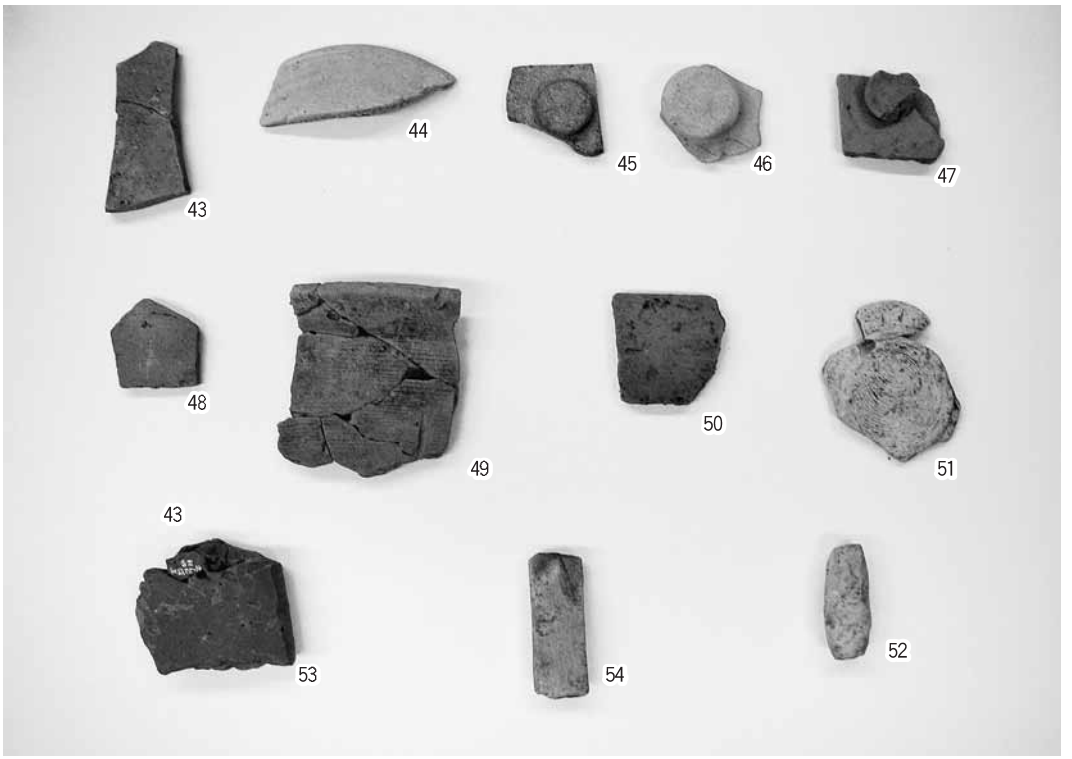


出土遺物３（表）



出土遺物３（裏）

PL.16



出土遺物４（表）

出土遺物４（裏）

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第９集
須江上段遺跡ー松ノ本地区ー
高圧送電線鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
１９９２.３
発　行　　㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原泉1437-1